

管理栄養学科 シラバス目次

2年後期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
2年後期	132	倫理学	CS401
1年～4年	138	スポーツ・リクリエーション	CH103
2年通年	140	情報処理演習Ⅱ	CI301
2年後期	150	英会話Ⅱ	CL411
2年後期	154	フランス語Ⅳ	CL401
2年後期	158	中国語Ⅳ	CL402
2年後期	168	栄養生化学実験Ⅰ	NM403
2年後期	174	解剖生理学Ⅱ	NM406
2年後期	178	病理学Ⅰ	NM408
2年後期	182	微生物学	NM410
2年後期	188	食品学各論Ⅱ	NF404
2年後期	198	大量調理基礎実習	NF412
2年後期	208	応用栄養学Ⅱ	NA402
2年後期	222	栄養教育論Ⅲ	NE403
2年後期	224	栄養教育論実習	NE404
2年後期	226	臨床栄養学Ⅰ	NC401
2年後期	240	公衆栄養学Ⅰ	NP401
2年後期	250	給食経営管理実習Ⅰ	NL403
2年後期	292	道徳、総合的な学習の時間 及び特別活動の指導	EM401
2年後期	296	生徒指導の理論と方法	EM402
2年～3年	310	学校ボランティア(学外活動)	EV301

倫理学 (2単位)

開講時期 2年・後期 (管理栄養学科)
担当者氏名 齋藤 篤

◆授業概要

倫理学とは「人格的・規範的・社会的存在としての人間の価値や行為、また相互の共存の規範・原理を考究する学問」(広辞苑第七版)と定義されています。簡単に言えば、私たちがお互いに生きる世界でいかに「幸せに生きることができるか」について考える学問です。本授業では、そのためのヒントとなる学びを行います。

◆到達目標

1. 物事に対して自分の頭で考え、物事に対する判断と決断ができる。
2. 判断するための材料として、社会科学的な諸分野に興味と関心を持ち、それを多角的に活用できる。
3. 倫理する営みを通して、自他ともに共栄できる社会を目指すことができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	オリエンテーション 倫理とは何か?	倫理学を受講するにあたっての心構えを踏まえた上で、倫理とは何かについて学ぶ。	予習 倫理の意味を調べる (60分)
			復習 倫理の意味をまとめる (60分)
2	倫理する営み	倫理とは種々の材料を用いて自分の頭で考え、判断と決断をする営みである事を知る。	予習 「5W1H」の意味を調べる (60分)
			復習 「なぜを問う」の意味をまとめる (60分)
3	人間の良心	そもそも人間が持っている良心が、倫理観にどのような影響を与えるかについて学ぶ。	予習 性善説・性悪説の意味を調べる (60分)
			復習 人間の良心の意味をまとめる (60分)
4	法と倫理	法律はなぜ世の中に存在するのか、倫理的な側面から考える。	予習 日本にある法律の種類を調べる (60分)
			復習 法律と倫理の関係性をまとめる (60分)
5	愛するということ (1)	世界では「愛」という言葉をどのように受け止めているかについて学ぶ。	予習 「愛」という言葉の語源を調べる (60分)
			復習 愛の多種多様な定義をまとめる (60分)
6	愛するということ (2)	ギリシア哲学におけるアガペー(無償の愛)とエロス(欲求充足の愛)について学ぶ。	予習 アガペーとエロスの意味を調べる (60分)
			復習 アガペーとエロスの違いをまとめる (60分)
7	愛するということ (3)	同性愛をはじめとする「LGBTQ+」の学びを通して、愛することの意味を深める。	予習 LGBTQ+の定義を調べる (60分)
			復習 LGBTQ+についての意見をまとめる (60分)
8	愛するということ (4)	愛情表現における「性的同意」の課題についての理解を深める。	予習 性的同意の意味について調べる (60分)
			復習 性的同意についての意見をまとめる (60分)
9	平和について (1)	平和とは何かについて、さまざまな角度からその意味を深める。	予習 平和の意味について調べる (60分)
			復習 平和の定義についてまとめる (60分)
10	平和について (2)	なぜ平和が実現しないのか。平和を阻害する原因と要素について学ぶ。	予習 現在起きている戦争を調べる (60分)
			復習 平和が実現しない理由をまとめる (60分)
11	平和について (3)	個人間のコミュニケーションのあり方について、平和という観点から考える。	予習 メラビアン法則について調べる (60分)
			復習 円滑な意思疎通についてまとめる (60分)
12	正義について (1)	私たちは正義についてどのように考えるかについて、利点と欠点について学ぶ。	予習 自分自身にとっての正義を調べる (60分)
			復習 正義の利点と欠点をまとめる (60分)
13	正義について (2)	正義のあり方を踏まえて、人間関係における「期待と甘え」についての理解を深める。	予習 良い人間関係とは何かを調べる (60分)
			復習 期待と甘えが与える影響をまとめる (60分)
14	正義について (3)	正義のあり方を踏まえて、人間社会における「同調圧力」についての理解を深める。	予習 同調圧力とは何かを調べる (60分)
			復習 同調圧力が与える影響をまとめる (60分)

15	改めて倫理とは何か？ 全体のまとめ	本授業で学んだことを振り返りつつ、改めて 倫理とは何かについて問う。	予習 これまでの授業をすべて振り返る。(60 分)
			復習 倫理の定義を自分なりにまとめる。(60 分)

◆教科書及び資料

教科書に相当するレジュメ・資料等は、毎授業ごとに配布します。

◆参考書

書 名	著 者	発行所
ふだんづかいの倫理学	平尾昌宏	晶文社

参考書は随時紹介します。

※授業で使用する資料は学生 sharePoint に格納していますので、欠席時は各自ダウンロードしてください。

◆関連科目

日本国憲法、社会学、心理学、文学、自己表現法、生物学、情報処理演習、保健体育

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足)

- ・定期試験は、期末試験の1回のみとします。
- ・レポートは、毎授業時に配布する「リアクションペーパー」に記載した内容で判断をします。なおリアクションペーパーの提出は、予習・復習の一部とみなします。
- ・学習に取り組む姿勢・意欲は、①他人に迷惑をかけない授業態度、②やむを得ない欠席や遅刻時の自主的な連絡、③その他授業時および前後の積極性などで判断をします。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

- ・授業開始時に、前回リアクションペーパーに記載された内容に基づいてフィードバックを行います。
- ・その他、質問や意見に対しては随時フィードバックの機会をもちます。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・授業中の私語は厳禁とします。「授業を受ける権利」とは何かを考えながら、授業に臨んでください。
- ・所用などで欠席することが事前に分かっている場合、もしくは体調不良などで当日欠席する場合は、講師までその旨を連絡してください。授業に積極的に取り組む姿勢・意欲と受け止めます。

◆オフィスアワー

受付時間：出講日

受付場所：学務課

上記で対応できない場合：授業前後、もしくは講師メールアドレスもしくはSNS等にご連絡ください。別途時間を取りたいと思います。連絡方法については、初回授業時にお知らせします。

スポーツ・リクリエーション

(1単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1～4年・前～後期
担当者氏名 膳法 浩史

◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。
本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる (60分)
			復習 会場までの道順を調べる (30分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (60分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (30分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (60分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する (30分)
			復習 わからなかった用語を調べる (30分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる (30分)
			復習 議論した内容をまとめる (60分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える (60分)
			復習 提案した内容をまとめる (60分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる (60分)
			復習 用語をまとめる (30分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる (60分)
			復習 用語をまとめる (30分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる (60分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる (30分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える (60分)
			復習 提案内容をまとめる (30分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する (60分)
			復習 流れを再確認する (30分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する (30分)
			復習 担当と流れを再確認する (60分)

14	レクリエーションイベント運営①	班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30 分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30 分)
15	レクリエーションイベント運営②	班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30 分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30 分)

※過去のウォーキングラリー： 2023 年度 銀座、2022 年度 神田万世橋、2020 年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6 号館 2 階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05. ac. jp) で対応する。

情報処理演習Ⅱ (2単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 2年・前期～後期

担当者氏名 岡本 直也

◆授業概要

情報処理演習Ⅰでは扱わなかった、統計関数を中心とした Excel によるデータ処理・グラフ作成および動画・画像編集を行う。その上で、データの加工に必要であるがパソコンにはインストールされていないソフトウェアを学生自身で入手・利用し、パソコンを最大限活用する方法を学習する。また、コンピュータやネットワークの仕組み、情報モラル、情報セキュリティに関する演習を行う。後期は、前期で学習した動画・画像編集を活用し、PowerPoint を用いた魅力的なスライド作成およびプレゼンテーションを行う。また、授業計画と並行して、MOS 試験（マイクロソフト オフィス スペシャリスト：Word, Excel, PowerPoint 等）対策および Office の知識をレポート作成に活かすための演習を行う。授業は各回、パソコンを用いた演習形式で行われ、一人一人のペースに応じて課題を進める。

◆到達目標

1. Office を活用したデータ処理、レポート・論文作成、プレゼンテーションを行うことができる。
2. 様々なアプリケーションソフトを利用した情報処理・加工ができる。
3. 情報モラル・セキュリティを理解し、正しく安全にコンピュータを活用できる。

◆授業計画（前期）

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	パスワード変更、Web メール設定確認、MOS 試験概要	予習 「情報システム利用手引き」を読み、学内 LAN の利用ルールを再確認する。(40分) 復習 メール転送設定の確認をする。必要に応じてドメイン指定受信設定を行う。(20分)
2	画像編集	ドローソフト、ペイントソフト、透過処理	予習 ドローソフトとペイントソフトの種類・違いを調べる。(20分) 復習 ソフトウェアの機能と使い方を覚える。(20分)
3	画像編集	ペンタブレットによるイラスト作成、PowerPoint を用いたポスター作成と印刷	予習 イラスト内容を考える。(20分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。イラストを完成させる。(20分)
4	動画編集	動画撮影、動画の取り込み	予習 動画素材を考える。(20分) 復習 カードリーダーの使い方を覚える。(20分)
5	動画編集	動画形式の変換、タイトル、キャプション、カット、トリミング、回転	予習 動画編集ソフトの種類と機能を調べる。(20分) 復習 動画を編集する。(20分)
6	動画編集	アニメーション、視覚効果、音楽	予習 動画を編集する。(20分) 復習 動画編集方法を覚える。(20分)
7	情報モラル	著作権、個人情報、SNS	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20分) 復習 事例・用語・意味を覚える。(40分)
8	情報セキュリティ	マルウェア、ウイルス、トロイの木馬、スパイウェア、不正アクセス、フィッシング詐欺	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20分) 復習 事例・用語・意味を覚える。(40分)
9	パソコンの構成と仕組み、ネットワーク	ハードウェア、ソフトウェア	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20分) 復習 用語と意味を覚える。(40分)

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
10	パソコンの構成と仕組み、ネットワーク	インターネット、LAN、IP アドレス、ドメイン名	予習 配布資料の用語と関連事項を調べる。(20 分)
			復習 用語と意味を覚える。(40 分)
11	Excel 関数	平均、分散、中央値、最頻値、最大値、最小値、標準偏差、偏差値、相関係数	予習 配布資料により、統計用語と意味を調べる。(20 分)
			復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(60 分)
12	データ分析	Excel アドイン、ヒストグラム、F 検定	予習 検定手順を理解する。(20 分)
			復習 検定手順と Excel データ分析ツールの使い方を覚える。(60 分)
13	データ分析	t 検定	予習 検定手順を理解する。(20 分)
			復習 検定手順と Excel データ分析ツールの使い方を覚える。(60 分)
14	データ分析	χ^2 検定	予習 検定手順を理解する。(20 分)
			復習 検定手順と Excel データ分析ツールの使い方を覚える。(60 分)
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。(40 分)
			復習 e-learning による反復学習をする。(40 分)

◆授業計画（後期）

回	項 目	内 容	予習・復習
1	ガイダンス	PowerPoint の概要と基本操作、伝わる資料作成の法則、ショートカットキー	予習 教科書 p1～42（第1章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 画面構成・リボン・タブの機能を覚える。(40 分)
2	プレゼンテーションの資料作成、デザイン	スライドの作成・移動・削除、箇条書き、テーマ、配色、フォント、ワードアート、プレゼンテーションの保存	予習 教科書 p43～94（第2～3章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
3	図表・グラフ・写真の挿入	図表・グラフ・写真の挿入、スライドの印刷、SmartArt、Excel グラフの利用、写真のトリミング、スクリーンショット	予習 教科書 p95～156（第4～5章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
4	動画・音楽の挿入、アニメーションの設定	ビデオの挿入・トリミング、オーディオの挿入、アニメーション、画面切り替え	予習 教科書 p157～186（第6～7章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
5	スライドショーの実行	スライドショーの準備と実行、発表者ツール	予習 教科書 p187～218（第8章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
6	スライドマスター、クラウドで使いこなす、	スライドマスターの修正、ヘッダー、フッター、クラウドの仕組み、OneDrive に保存、モバイルアプリ、PowerPoint Online、共有の設定、	予習 教科書 p219～258（第9～10章）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 左記を実践し、操作方法を覚える。(30 分)
7	配布資料の作成、オリジナルテンプレート、タブ・リボンのカスタマイズ	配布資料・発表者用資料の作成、PDF 形式で保存、オリジナルテンプレートの作成・保存、タブ・リボンのカスタマイズ	予習 教科書 p259～311（第11～12章、付録）の手順および HINT・POINT 等を理解する。(20 分) 復習 オリジナルテンプレートを作成する。(30 分)
8	プレゼンテーション資料の準備	資料収集、Web ページの引用と転載、著作権、フリー素材	予習 プレゼンテーションのテーマを決める。(30 分) 復習 参考資料を収集する。(30 分)
9	プレゼンテーション資料の準備	画像編集	予習 写真・イラストを用意する。(60 分) 復習 画像を完成させる。(20 分)
10	プレゼンテーション資料の準備	動画編集	予習 動画素材を用意する。(60 分) 復習 動画を完成させる。(20 分)
11	プレゼンテーション	各自のテーマでスライドを作成	予習 教科書の HINT・POINT・テクニックを理解する。(30 分) 復習 スライドを編集する。(30 分)
12	プレゼンテーション	スライド編集	予習 スライドを編集する。(30 分) 復習 スライドを編集する。(30 分)
13	プレゼンテーション	アニメーション、ノートの作成	予習 スライドを編集する。(30 分) 復習 スライドを完成させる。(30 分)
14	プレゼンテーション	発表者ツール、リハーサル、タイミング	予習 発表者ツールの機能を調べる。(20 分) 復習 スライド作成から発表までの手順を理解する。(40 分)
15	総合演習	e-learning	予習 e-learning による反復学習をする。(40 分) 復習 e-learning による反復学習をする。(40 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
できる PowerPoint 2019	井上香緒里, できるシリーズ編集部	インプレス

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

情報処理演習 I

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲			

(補足)

- ・ 前後期各 15 回の授業すべてに遅刻をせず出席し、他の受講者の学習環境に配慮しつつ、堅実に取り組むことを前提として、「成績評価の方法・基準」により評価する。
- ・ 定期試験は、授業内で扱った問題から出題され、パソコンを用いた実技および筆記試験を併用して行う。
- ・ 資格試験に合格することにより、定期試験の結果に加点される。
- ・ 「実技」は、パソコン操作 (ショートカットキー、タイピング、受講態度等)、小テストにより評価する。小テスト (筆記・e-learning) は不定期に複数回行う。
- ・ 授業内で作成する課題を「レポート」点として評価する。成果物の完成度のみならず、作成過程 (予習・復習をした上で効率よく作成できるか等) を重視する。
- ・ ICT 授業支援システムを用いて、授業の理解度把握および質問受付を行う。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題ファイルに修正が必要な場合は、学生個別に解決策を提示し、再提出を求める。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・ 演習は、学生ファイルサーバー (学生共通¥全学年学生共通¥情報処理演習 2025) のシラバスにしたがって進める。
- ・ 第 1 回授業で質問用の電子メールアドレスを周知する。
(学生 SharePoint ⇒ 10. 講義資料 ⇒ 情報処理演習 (岡本) ⇒ 連絡先メールアドレス・授業システム QR コード一覧)

◆オフィスアワー

受付時間：月～木曜日、16：10～17：00

受付場所：情報処理研究室

上記で対応できない場合：電子メールで質問を受け付ける。(曜日・時間は問わない)

英会話Ⅱ (1単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・後期
担当者氏名 植芝牧

◆授業概要

英語を話すためには英語への苦手意識を取り去り、英語でコミュニケーションをとる楽しさを体験するのが近道である。そのため難解な専門用語や長文を避けて、日常的な語彙力、英文法の理解、英語運用能力に特化して鍛錬する。希望者は無料でオンライン英会話のレッスンが受けられる。授業の15回目にモデル英会話を暗唱してクラスの前で発表する。

◆到達目標

1. 日常英会話を聴き、理解できる。
2. 日常レベルの英会話を話すことができる。
3. TOEIC の Listening Part で50%得点できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	ディプロマポリシーと科目の関連説明。Unit8 Friends	高校時代の友達や、どんな人間と友達になりたいか等を表現する。	予習 英単語の意味を調べる (30分)
			復習 英単語を憶える (30分)
2	Unit 8 Expanded Conversation, Short Talk	Personality (人となり) を表現する形容詞を憶えて使いこなす。	予習 英単語 (形容詞) の意味を調べる (30分)
			復習 英単語 (形容詞) を憶える (30分)
3	Unit 9 Going Out	友人と日常的に行うアクティビティについて表現する練習	予習 英単語の意味を調べ、Preparation A の表現練習 (30分)
			復習 英単語を憶える (30分)
4	Unit 9 Expanded Conversation, Short Talk	自分の自由時間の過ごし方について表現する練習。Unit7～9の復習	予習 一週間のスケジュール表を英語で作成する (30分)
			復習 音声をダウンロードしてShort Talk をやり直す (30分)
5	Unit 10 Restaurants	レストランのメニューを書き、実際に注文する練習	予習 音声をダウンロードして Conversation Model を練習する (30分)
			復習 Vocabulary と Reading の和訳 (30分)
6	Unit 10 Expanded Conversation, Short Talk	この前行ったレストランを友人に紹介する練習。	予習 音声をダウンロードしてShort Talk をやる (30分)
			復習 音声をダウンロードしてShort Talk をやり直す (30分)
7	Unit 11 Shopping	店舗の種類と販売されている物品を英語で組み合わせる練習 次回上映する映画の紹介	予習 音声をダウンロードして Conversation Model をやる (30分)
			復習 音声をダウンロードして Conversation Model をやり直す (30分)
8	映画鑑賞	著名な洋画を鑑賞して英語のシナリオを味わう	予習 配布された映画のシナリオを学習する (30分)
			復習 映画の感想文を作成する (30分)
9	Unit 11 Expanded Conversation, Short Talk	友人にプレゼントをする場合、何が欲しいかをそれとなく聞き出す練習	予習 音声をダウンロードしてShort Talk をやる (30分)
			復習 音声をダウンロードしてShort Talk をやり直す (30分)
10	Unit 12 Strengths and Weaknesses	友人に自分の長所と短所、得手不得手について述べる練習	予習 音声をダウンロードして Conversation Model を練習する (30分)
			復習 音声をダウンロードして Conversation Model を練習し直す (30分)
11	Unit 12 Expanded Conversation, Short Talk	自分にどんなスキルがあるかを述べる練習 Unit10～12の復習	予習 音声をダウンロードしてShort Talk をやる (30分)
			復習 音声をダウンロードしてShort Talk をやり直す (30分)
12	Unit 13 Places	自分が行ってみたい場所について表現する練習。モデル英会話の配布	予習 英単語の意味を調べる (30分)
			復習 英単語を憶える (30分)
13	Unit 13 Expanded Conversation, Short Talk	世界の様々な場所についての応答練習。モデル英会話の練習。	予習 音声をダウンロードしてShort Talk をやる (30分)
			復習 音声をダウンロードしてShort Talk をやり直す。モデル英会話の練習 (60分)

14	モデル英会話練習	予め配布されていたモデル英会話の練習	予習	モデル英会話の練習(30分)
			復習	モデル英会話の練習(30分)
15	前期末実技テスト／モデル英会話	予め配布されていたモデル英会話を二人一組で実演する。	予習	モデル英会話の練習(30分)
			復習	モデル英会話の練習(30分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
Free Talk	Adam Gyenes 他	センゲージラーニング

◆参考書

書 名	著 者	発行所
英語耳	松澤 喜好	アスキー・メディアワークス

◆関連科目 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	
レポート		実技(発表・コミュニケーション)	50
学習に取り組む姿勢・意欲	10%		

(補足) 無料のオンライン英会話が受けられる。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

前期末テストは後期の初回に返却して解説する。実技テストはその場で評価を伝える。

◆受講上の注意事項及び助言

テキストを必ず持参すること。忘れた場合は「学習に取り組む姿勢・意欲」から減点する。遅刻は30分を限度とし、それ以上遅れると欠席扱いにする。インフルエンザや新型コロナウイルス感染者は診断書を学務課に提出すること。

◆オフィスアワー

受付時間： 木曜日 14:00～17:00

受付場所： 4号館4階 英語研究室

上記で対応できない場合：直接メールで質問する。研究室での指導を希望する場合には予約すること。

フランス語Ⅳ (1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 2年・後期
担当者氏名 松浦 寛

◆授業概要

フランス語Ⅲの内容を踏まえて、さらに発展的な学習を目指します。授業のやり方等は、前期と同じです。予習・復習を習慣づけ、フランス語検定試験を受けられるよう対策を講じたいと思います。

◆到達目標

1. 初見のフランス語をすべて発音できるようにする。
2. 初歩的な会話のやりとりができるようになる。
3. 実用フランス語検定試験4級に合格できるようにする。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	前期の復習	前期の学習内容のまとめ	予習 なし
			復習 30分 前期のまとめ
2	なんて愛されているんだ！	誕生日を祝う	予習 pp.38-41 30分 受動態
			復習 30分 強調構文
3	同上	同上	予習 同上 30分 avoir を使う熟語
			復習 30分 時刻の言い方
4	昨日はとても楽しかったね	旅行の行き先を決める	予習 pp.42-45 30分 代名動詞の複合過去
			復習 30分 特殊な変化の形容詞
5	同上	同上	予習 同上 30分 形容詞男性第2形
			復習 30分 比較表現
6	フランスで一番高いの？	再会を約束する	予習 pp.46-49 30分 特殊な比較表現
			復習 30分 否定表現
7	同上	同上	予習 同上 30分 条件法の用法を覚える
			復習 30分 条件法の運用に習熟する
8	仏検4級対策	対話文の読解	予習 pp.50-53 30分
			復習 30分 限定詞
9	同上	同上	予習 同上 30分 対話文読解
			復習 30分 単語の並び替え
10	新年おめでとう！	グリーティング・カード	予習 pp.54-57 30分 会話文読解
			復習 30分 応答文の選択
11	同上	同上	予習 同上 30分 関係代名詞の用法
			復習 30分 関係代名詞の運用
12	ジュリーがいっしょで嬉しい	自己紹介	予習 pp.58-61 30分 接続法現在の用法
			復習 30分 接続法現在の運用に習熟する
13	同上	同上	予習 同上 30分 接続法過去の用法
			復習 30分 接続法過去の用法
14	後期のまとめ1	後期の内容の復習	予習 なし
			復習 30分 後期のまとめ
15	後期のまとめ2	同上	予習 なし
			復習 30分 後期のまとめ

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ケンとジュリー2（二訂版）	太原孝英 他	駿河台出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所
プチ・ロワイヤル仏和辞典	倉方秀憲	旺文社
PC 版・iphone・ipad 版もある		

◆関連科目

なし。

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト・ノート提出	10
レポート	10	実技(発表・コミュニケーション)	30
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 実践的な科目なので、試験とともに出欠を重視する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

ノート提出後、内容をチェックし返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

科目の性質上、遅刻や欠席は極力避けたい。成績評価は、出欠状況を重視する。辞書は、上記紹介のもの以外でもかまわないが、2年次も使用する可能性があるため、各自で購入の上、必ず持参すること。

【辞書を持参しない者は受講できない】

◆オフィスアワー

受付時間：質問は、授業時に示す E-mail にて受け付ける。

中国語Ⅳ (1単位) (管理栄養学科・食品学科)

開講時期 2年・後期

担当者氏名 陳 揚慈

◆授業概要

これまで習得した内容を固めながら、会話に欠かせない複文や補語を取り入れ、語彙を増加し、応用の訓練を行う。日常生活における様々な状況を設定し、会話を進め、語学力の向上を養っていく。

◆到達目標

この授業では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの技能に対し、グループによる会話練習や習得した文法と単語による作文練習など、バランスよく訓練を行う。こうした学習を通して日常的な会話、簡単な作文ができると同時に、簡単な文章も読める。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	①前期復習 ②決まり文句	①プリントを配布、前期に学んだ内容の理解度チェック。 ②決まり文句の復習	予習 前期学習した総まとめを復習、決まり文句の発音を練習しておく。(60分)
			復習 プリントの解答を再確認しておく(60分)
2	①第9課の文法Ⅰ ②決まり文句	①義務・必要を表す助動詞 ②決まり文句 21～25	予習 第9課の単語を読んでおく(60分)
			復習 第9課の文法Ⅰを復習(60分)
3	①第9課の文法Ⅱ ②決まり文句	①推量・可能性を表す助動詞 ②決まり文句 21～25 (音読練習)	予習 第9課の文法Ⅱを予習する(60分)
			復習 第9課の文法Ⅱを復習する(60分)
4	①第9課の文法Ⅲ ②決まり文句	①助動詞の否定と疑問 ②決まり文句 21～25 (暗誦)	予習 第9課の文法Ⅲを予習する(60分)
			復習 第9課の文法Ⅲを復習する(60分)
5	①第9課の本文 ②決まり文句	①本文の解説と練習問題 ②決まり文句 26～30	予習 第9課の本文の和訳と練習問題を書いておく(60分)
			復習 第9課の練習問題を確認しておく(60分)
6	①第9課の会話 ②決まり文句	①会話をペアで練習を行う ②決まり文句 26～30 (音読練習)	予習 第9課の会話を読んでおく(60分)
			復習 決まり文句 21～30 を繰り返して読んでおく(60分)
7	①第10課の文法Ⅰ ②決まり文句	①主語となる成分(動詞句・名詞句・主述語) ②決まり文句 26～30 (暗誦)	予習 第10課の単語を読んでおく(60分)
			復習 第10課の文法Ⅰを復習(60分)
8	①第10課の文法Ⅱ ②決まり文句	①二重目的語・離合動詞・動詞の重ね型 ②決まり文句 31～35	予習 第10課の文法Ⅱを予習しておく(60分)
			復習 第10課の文法Ⅱを復習(60分)
9	①第10課の文法Ⅲ ②決まり文句	①さまざまな目的語(動詞句・主述構造・前置) ②決まり文句 31～35 (音読練習)	予習 第10課の文法Ⅲを予習しておく(60分)
			復習 第10課の文法Ⅲを復習(60分)
10	①第10課の文法Ⅳ ②決まり文句	①補語(動量・時量) ②決まり文句 31～35 (暗誦)	予習 第10課の文法Ⅳを予習しておく(60分)
			復習 第10課の文法Ⅳを復習(60分)
11	①第10課の本文 ②決まり文句	①本文の解説と練習問題 ②決まり文句 36～40	予習 第10課の本文の和訳と練習問題を書いておく(60分)
			復習 第10課の練習問題を確認しておく(60分)
12	①第10課の会話 ②決まり文句	①会話をペアで練習を行う ②決まり文句 36～40 (音読練習)	予習 第10課の会話を読んでおく(60分)
			復習 決まり文句 36～40 を繰り返して読んでおく(60分)
13	①第9、10課の復習 ②決まり文句	①第9、10課のプリントを配布 ②決まり文句 36～40 (暗誦)	予習 第9、10課の語法重点を復習しておく(60分)
			復習 第9、10課のプリントを確認する(60分)
14	①自己紹介 ②実践会話	①自己紹介の文を作って、添削する ②会話の問答を行う(Ⅰ)。	予習 自己紹介の話題を考えておく。(60分)
			復習 訂正されたところを確認しておく。(60分)
15	後期の総まとめ	①プリントを配布して総復習を行う。 ②自己紹介と会話の問答を行う(Ⅱ)。	予習 配布されたプリントを解いておく(60分)
			復習 自己紹介の文を再確認して後期試験を臨む。(60分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ぐんぐんのびる中国語 1 —構文で学ぶ初級中国語—	何 珍時	朝日出版社

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	40	小テスト	20
レポート	0	実技 (発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	20		

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

小テスト：前の週に通知、試験後解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

配布された内容を有効に利用し、毎回の授業の内容を予習、復習することが大事である。60時間以上の授業外学修を行うこと。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後に対応します。

受付場所： 学務課

上記で対応できない場合：学務課に相談して下さい

栄養生化学実験 I

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期

担当者氏名 福田 亨

◆授業概要

栄養生化学実験 I では、1) 消化と吸収、2) 血液中の栄養成分の定量実験を実施し、栄養素摂取と生体成分および生命現象（代謝）に関する理解を深める。消化と吸収では動物飼育実験を飼料作成からはじまり、出納試験、解剖所見まで行う。統計学を用いたデータ処理、パワーポイントによる発表を課すことにより、深く栄養学的知識を学ぶ。

◆到達目標

1. 動物飼育実験を通して栄養の概念を理解することができる。
2. 実験結果をまとめることにより食物中の栄養素の効果の最終的な結論を発表することができる。
3. 栄養学に関連する課題、疑問を自ら考え、調べる手法と実践する意欲を身に付けることができる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	ガイダンス	動物飼育実験の説明	予習 教科書 “動物実験” に目を通す (20 分)
			復習 実験の心得を確認する (60 分)
2	飼料作成	動物性たんぱく質食群、植物性たんぱく質食群の飼料を調整する	予習 教科書 “飼料の調整法” 目を通す (20 分)
			復習 実験ノートにまとめる (60 分)
3	動物飼育の準備	飼育カゴ、えさ箱、給水瓶の準備と動物飼育の説明	予習 教科書 “飼育方法” に目を通す (20 分)
			復習 実験ノートにまとめる (60 分)
4	飼育開始	動物を群分けして、飼育を開始する	予習 教科書 “飼育方法” に目を通す (20 分)
			復習 実験ノートにまとめる (60 分)
5	出納試験の実施	代謝ケージに移して 3 日間、糞尿を個別採取する	予習 教科書 “出納実験” に目を通す (20 分)
			復習 実験ノートにまとめる (60 分)
6	解剖・所見・臓器重量の測定	解剖・所見を行った後、臓器を摘出して重量を測定する	予習 教科書 “解剖手順” に目を通す (20 分)
			復習 実験ノートにまとめる (20 分)
7	データ処理	飼育、解剖のデータを統計処理する	予習 教科書 “実験値の検定法” に目を通す (30 分)
			復習 t-検定についてまとめる (60 分)
8	飼料中 N 量の測定	ケルダール法にて飼料中の N 量を測定する	予習 教科書 “ケルダール法” に目を通す。 (20 分)
			復習 ケルダール法についてまとめる (60 分)
9	糞中 N 量の測定	ケルダール法にて糞中の N 量を測定する	予習 発表のためにデータを整理 (20 分)
			復習 ケルダール法についてまとめる (60 分)
10	尿中 N 量の測定	ケルダール法にて尿中の N 量を測定し、窒素出納を完成させる	予習 発表のためにデータを整理 (20 分)
			復習 ケルダール法についてまとめる (60 分)
11	たんぱく質に関する実験	総蛋白・アルブミンの測定 (BCG 法、ビュレット法) を理解する	予習 教科書 “血清蛋白” に目を通す (20 分)
			復習 BCG 法、ビュレット法についてまとめる レポート作成 (60 分)

12	脂質に関する実験	遊離脂肪酸の働きと代謝および定量法を理解する	予習 教科書“脂質”に目を通す (20分)
			復習 2種の酵素を使用した測定法についてまとめる レポート作成 (60分)
13	プレゼンテーションの準備	発表用のパワーポイントを作成する	予習 パワーポイント作成 (20分)
			復習 パワーポイント作成 (60分)
14	プレゼンテーション	班ごとに担当を決め、プレゼンテーションを行う	予習 プレゼン準備 (60分)
			復習 プレゼンテーションをまとめる (20分)
15	プレゼンテーションまとめ	NA・NB両クラスの実験データをまとめ、比較検討する	予習 クラス結果をまとめる (20分)
			復習 データの比較結果をまとめる (60分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
授業時に配布		

◆参考書

書 名	著 者	発行所
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学	田地 陽一	羊土社
栄養科学イラストレイテッド 生化学	菌田勝	羊土社

◆関連科目

栄養学、栄養生化学Ⅰ・Ⅱ、栄養学実験

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) レポートは提出期限の厳守、座学で得られた知識に基づいた実験結果の論理的な考察がされているかを中心に評価する。また、授業期間内に**未提出レポートがあるものは再履修**とします。

学習に取り組む姿勢・意欲は授業の欠席状況、積極的に実験に取り組んでいるかを評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

提出した実験レポートは内容を確認し、次回授業時に返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に実験に参加すること
- ・不明な点は必ず質問すること
- ・レポートは期限までに提出すること。提出期限に遅れたレポートの評価は行わない
- ・グループ単位で実験を行うので、必ず出席をすること
- ・動物実験に関する教育訓練を受講し、使用する動物への十分な配慮を行うこと

◆オフィスアワー

受付時間： 授業時間以外 9:00～17:00
 受付場所： 食品生化学研究室 (7号館 2F)
 上記で対応できない場合： E-mail にて対応

解剖生理学Ⅱ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・後期
担当者氏名 正田 良介

◆授業概要

「解剖生理学Ⅰ」の学習を踏まえて、「解剖生理学Ⅱ」では、各論の内分泌系、呼吸器系、血液・リンパ系、免疫・アレルギー系、神経系、感覚系、加齢と死、感染、生殖器系の分野について学ぶ。「解剖生理学Ⅰ」と合わせて、管理栄養士として必要な身体の構造と機能に関して理解する。各講義前半 1/3 程度は前回のまとめの内容とし、理解の促進と前回欠席者のスムーズな参加を促すようにしている。また、講義内容は動画として講義終了後に share point にアップする予定であり、復習・自習に活用してもらいたい。

◆到達目標

1. 人体の臓器の位置関係、各部の名称、構造を説明できる。
2. 各器官の正常な機能とその仕組みを説明できる。
3. 生体に起きている現象について自然科学的に説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	内分泌系①	分類・構造・作用機序、分泌調節機構、視床下部・下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン	予習 教科書 (Ⅱ) 8章A-a, b, c (20分)
			復習 内分泌系①の内容、内容とは教科書の事項と講義の重要点 (配付資料) で以下同様 (20分)
2	内分泌系②	カルシウム代謝ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン、膵島ホルモン、性腺ホルモン	予習 教科書 (Ⅱ) 8章A-d, e, f, g (20分)
			復習 内分泌系②の内容 (20分)
3	呼吸器系①	気道の構造と機能、肺の構造と機能	予習 教科書 (Ⅱ) 10章A-a, b (20分)
			復習 呼吸器系①の内容 (20分)
4	呼吸器系②	酸素・二酸化炭素運搬の仕組 (低圧・高圧環境を含む)、呼吸性アシドーシス・アルカローシス、	予習 教科書 (Ⅱ) 7章A-e-2-1、10章A-c (20分)
			復習 呼吸器系②の内容 (20分)
5	血液・リンパ系①	血球の分化・成熟、赤血球・白血球・血小板	予習 教科書 (Ⅱ) 13章A-a, b (20分)
			復習 血液・リンパ系①の内容 (20分)
6	血液・リンパ系②	血漿たんぱく質、凝固・線溶系	予習 教科書 (Ⅱ) 13章A-c, d (20分)
			復習 血液・リンパ系②の内容 (20分)
7	免疫・アレルギー系①	生体防御機構、体液性免疫・細胞性免疫、免疫寛容	予習 教科書 (Ⅱ) 14章A-a, b (20分)
			復習 免疫・アレルギー系①の内容 (20分)
8	免疫・アレルギー系②	免疫と栄養、アレルギー	予習 教科書 (Ⅱ) 14章A-c、4章B-b (20分)
			復習 免疫・アレルギー系②の内容 (20分)
9	神経系①	活動電位・ニューロン・シナプス、中枢神経 (脳・脊髄) の構造と機能	予習 教科書 (Ⅱ) 9章A-a-1, 2, 3, 4 (20分)
			復習 神経系①の内容 (20分)
10	神経系②	末梢神経 (脳神経・脊髄神経) の構造と機能、脳血管の構造と機能、体性神経、自律神経	予習 教科書 (Ⅱ) 9章A-a-5, 6、A-b, c (20分)
			復習 神経系②の内容 (20分)
11	感覚系①	舌：味覚、鼻：嗅覚、眼：視覚	予習 教科書 (Ⅱ) 9章A-d-1, 2, 3 (20分)
			復習 感覚系①の内容 (20分)
12	感覚系②	耳：聴覚・平衡覚、皮膚：皮膚感覚・構造と機能	予習 教科書 (Ⅱ) 9章A-d-4, 5 (20分)
			復習 感覚系②の内容 (20分)
13	感染症 (総論)	発症、常在菌と菌交代、診断・治療、病原体の種類・感染症法、性行為感染症、院内感染症、新興・再興感染症、抗菌薬・抗生物質	予習 教科書 (Ⅱ) 15章A-1, 2, 3, 4 (表15-1, 2), b, c, d, e (20分)
			復習 感染の内容 (20分)

14	生殖器系	生殖器の発育・形態・機能、排卵、生殖・発生、妊娠、乳腺	予習 教科書（Ⅱ）12章A-a, c, d（図12-6）, e, B-a、教科書（Ⅱ）8章A-g（20分）
			復習 生殖器系の内容（20分）
15	加齢と死	加齢に伴う変化、個体の死	予習 教科書（Ⅱ）1章A、C（20分）
			復習 加齢と死の内容（20分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
人体の構造と機能及び疾患の成り立ち（Ⅱ）解剖生理学、病理学	（Ⅱ）加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一	第一出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
Visual 栄養学テキスト 解剖生理学	福島光夫（編）	中山書店
管理栄養士のための イラスト解剖生理学	開道貴信	講談社

◆関連科目

解剖生理学Ⅰ、病理学Ⅰ、病理学Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	70	小テスト	
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	10
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

（補足）定期試験の成績を基本とするが、出席状況を含む授業へ参加する姿勢が良好な場合には評価する。正当な理由がある欠席に関しては考慮する。本科目の学習に当たり、学生としての一般的な予習・復習を行い、授業中に配付資料に書き込みをするなどしながらきちんと聴講すれば、十分な評価は得られる。特に、短時間でも良いので授業後に教科書や配付資料・動画（予定）をもとに復習をすることは効果的である。細かい知識の習得も不要というわけではないが、解剖生理学の枠組みや相対的な関連が理解できていると、将来の資格試験の際や実際に職業に就いた際に自ら学ぶことがより楽しくできるようになる可能性が高くなる。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

授業後の質疑応答やフィードバック授業などで行う。また、可能な範囲で研究室での質疑応答は行いたいと考えている（オフィスアワー参照）。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士は、「病をもつ人」の栄養管理をすることが許される国家資格です。資格を持たない人にはそれができないと言うことです。栄養のことをきちんと学ぶことは当然ですが、「病をもつ人」の理解も必要不可欠です。正常人の身体の構造と機能を学ぶのが「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」であり、それに基づいて、病気のことを学ぶのが「病理学Ⅰ・Ⅱ」です。解剖生理学は、病理学を学ぶ前提となるものです。就業して、患者さんをはじめ、多くの医療関係の職種とチームを組んで仕事をする際の共通言語としても、解剖生理学や病理学は必要です。長時間を割く必要はありませんが、予習をすることで講義の理解が容易になり、復習をすることで正確な名称や機能が確認できるようになります。その上で、解剖学全体の中での位置づけや枠組みが理解できれば、将来的にも役立つことが多くなります。教科書には重要な事実が記載されていますが、講義ではその理由が少しでも理解できるように話を進めたいと考えています。

◆オフィスアワー 詳細は授業中に指示する。

受付時間： 月曜または水曜の16:15-17:00、及び金曜日12:00-12:30（変更の可能性あり）

受付場所： 解剖生理学第一研究室

上記で対応できない場合：上記で対応できない場合：各講義時間終了後、必要に応じて相談に対応する。

病理学Ⅰ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・後期
担当者氏名 正田 良介

◆授業概要

管理栄養士にとって必要な臨床医学と病気の成り立ちに関する知識を学ぶ。授業は「病理学Ⅰ」と「病理学Ⅱ」とに分割して行われる。「病理学Ⅰ」では、総論として疾患に伴う変化について理解した後、各論の腎・尿路系、内分泌系、呼吸器系、血液・造血・リンパ系、リウマチ・免疫・アレルギー、神経系、感染症の分野について学ぶ。各講義前半1/3程度は前回講義のまとめの内容とし、理解の促進と前回欠席者のスムーズな参加を促すようにしている。また、講義内容は動画として講義終了後に share point にアップしており、復習・自習に活用してもらいたい。

◆到達目標

1. 疾病を自然科学的に説明できる
2. 頻度の高い疾患の概念、疫学、病因、病状について説明できる。
3. 頻度の高い疾患の診断方法、治療法についてその概要を説明できる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	疾患に伴う変化①	炎症と創傷治癒、変性、壊死・アポトーシス、萎縮と肥大、過形成	予習 教科書 (Ⅱ) 1章 B-a, b, c, d (20分)
			復習 疾患に伴う変化①の内容、内容とは教科書の事項と講義の重要点 (配付資料) で以下同様 (20分)
2	疾患に伴う変化②	化生・異形成、良性・悪性腫瘍、発がん機序、がん遺伝子・がん抑制遺伝子、がんの増殖・浸潤・転移・播種	予習 教科書 (Ⅱ) 1章 B-e, f, g, h, i (20分)
			復習 疾患に伴う変化②の内容 (20分)
3	腎・尿路系①	急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性・慢性腎不全	予習 教科書 (Ⅱ) 7章 B-a, b, c (20分)
			復習 腎・尿路系①の内容 (20分)
4	腎・尿路系②	糖尿病性腎症、CKD (慢性腎臓病)、血液透析・腹膜透析、尿路結石症、腎・尿路系の症候	予習 教科書 (Ⅱ) 7章 B-d, e, f (20分)
			復習 腎・尿路系②の内容 (20分)
5	内分泌系①	甲状腺機能亢進症・低下症、原発性アルドステロン症	予習 教科書 (Ⅱ) 8章 B-a, b (20分)
			復習 内分泌系①の内容 (20分)
6	内分泌系②	褐色細胞腫、クッシング症候群、アジソン病、更年期障害、尿崩症	予習 教科書 (Ⅱ) 8章 B-c, d (20分)
			復習 内分泌系②の内容 (20分)
7	呼吸器系①	COPD (慢性閉塞性肺疾患)、気管支喘息	予習 教科書 (Ⅱ) 10章 B-a, b (20分)
			復習 呼吸器系①の内容 (20分)
8	呼吸器系②	肺炎、呼吸器系悪性腫瘍、肺結核・胸膜炎、中皮腫	予習 教科書 (Ⅱ) 10章 B-c, d (20分)
			復習 呼吸器系②の内容 (20分)
9	血液・リンパ・凝固系①	貧血	予習 教科書 (Ⅱ) 13章 B-a (20分)
			復習 血液・リンパ・凝固系①の内容 (20分)
10	血液・リンパ・凝固系②	出血性疾患、白血病	予習 教科書 (Ⅱ) 13章 B-b, c (20分)
			復習 血液・リンパ・凝固系②の内容 (20分)
11	免疫・アレルギー①	免疫不全、食物アレルギー	予習 教科書 (Ⅱ) 14章 B-a, c (20分)
			復習 免疫・アレルギー①の内容 (20分)
12	免疫・アレルギー②	膠原病、自己免疫疾患	予習 教科書 (Ⅱ) 14章 B-b (20分)
			復習 免疫・アレルギー②の内容 (20分)
13	神経系	脳出血・脳梗塞・くも膜下出血、認知症、パーキンソン病・症候群	予習 教科書 (Ⅱ) 6章 B-i、9章 B-a, b (20分)
			復習 神経系の内容 (20分)

14	感染症（各論）①	病原微生物：ウイルス感染症、	予習 教科書（Ⅱ）15章 A-a-2（20分）
			復習 感染症①の内容（20分）
15	感染症（各論）②	病原微生物：細菌感染症、クラミジア・リケッチア感染症、マイコプラズマ感染症真菌感染症、寄生虫症・原虫疾患	予習 教科書（Ⅱ）15章 A-a-1, 3, 4, 5, 6（20分）
			復習 感染症②の内容（20分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
人体の構造と機能及び疾患の成り立ち（Ⅱ）解剖生理学、病理学	（Ⅱ）加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一	第一出版

◆参考書

書 名	著 者	発行所
なるほどなっとく病理学プラス	小林正伸	南山堂
栄養科学イラストレイティド 臨床医学 疾病の成り立ち	田中明、藤岡由夫（編）	羊土社

◆関連科目

解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	70	小テスト	
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	10
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

（補足）定期試験の成績を基本とするが、出席状況を含む授業へ参加する姿勢が良好な場合には評価する。正当な理由がある欠席に関しては考慮する。本科目の学習に当たり、学生としての一般的な予習・復習を行い、授業中に配付資料への書き込みなどしながらきちんと聴講すれば、十分な評価は得られる。特に、短時間でも良いので授業後に教科書や配付資料・動画をもとに復習をすることは効果的である。細かい知識の習得も不要というわけではないが、解剖生理学の基本とともに疾病概念の枠組みや相対的な関連が理解できていると、将来の資格試験の際や実際に職業に就いた際に自ら学ぶことがより楽しくできるようになる可能性が高くなる。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

授業後の質疑応答やフィードバック授業などで行う。また、可能な範囲で研究室での質疑応答は行いたいと考えている（オフィスアワー参照）。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士は、「病をもつ人」の栄養管理をすることが許される国家資格です。資格を持たない人にはそれができないということです。栄養のことをきちんと学ぶことは当然ですが、「病をもつ人」の理解も必要不可欠です。正常人の身体の構造と機能を学ぶのが「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」であり、それに基づいて、病気のことを学ぶのが「病理学Ⅰ・Ⅱ」です。就業して、患者さんをはじめ、多くの医療関係の職種とチームを組んで仕事をする際の共通言語としても、解剖生理学や病理学は必要です。多くの時間を割く必要はありませんが、予習をすることで講義の理解が容易になり、復習をすることで正確な名称や機能が確認できるようになります。この授業で講義されるのは、管理栄養士の実務上、頻繁に対象となる疾患です。疾患の正しい知識は適切な対応のために不可欠です。解剖生理学で学んだ基礎を振り返りながら、病態・病理を中心に理解を深めることが望まれます。

◆オフィスアワー 詳細は授業中に指示する。

受付時間： 月曜または火曜の16:15-17:00、及び金曜日12:00-12:30（変更の可能性あり）

受付場所： 解剖生理学第一研究室

上記で対応できない場合：各講義時間終了後、必要に応じて相談に対応する。

微生物学 (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・後期
担当者氏名 鈴木 等

◆授業概要

微生物は自然界では物質循環や環境保全など多様な役割を担っているが、人体においても健康に関与する重要なはたらきを数多くもっている。このような有用な微生物が存在する一方、食中毒や感染症などの病気の原因となる微生物も多く知られており、これらに対する対策と対処法が栄養および食品の関連分野では必要とされる。病原微生物による疾病を防ぐためには、微生物についての十分な理解が基礎知識として求められる。とくに、微生物の生育条件、増殖方法、変異現象とその機構に関する知識を習得しておくことは、疾病の感染防御を徹底するうえで必要不可欠なことである。本講義では教科書を使用し微生物とは何かを解説し、さらに感染症についてその病原体・病態について概説する。病態の説明には、パワーポイントのスライドを使用する場合もある。

◆到達目標

1. 微生物の性質・特徴を理解し説明できる。
2. ヒトと微生物の関係を理解し説明できる。
3. 微生物の有益な事象、有害な事象を理解し説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	微生物の定義 ヒトと微生物	細胞生物誕生の概説、原核生物と真核生物の違い、微生物とヒトの関わり	予習 教科書 p1-10 に目を通し、原核細胞の誕生について調べる (60 分) 復習 原核細胞と真核細胞の誕生および両者の特徴を整理し、ノート等にまとめる (60 分)
2	微生物と健康	環境細菌、人体常在菌、腸内細菌叢	予習 教科書の p96-100 に目を通し、ヒトの腸内に存在する微生物を調べる (60 分) 復習 腸内細菌の役割、健康に有効な微生物についてノート等にまとめる (90 分)
3	微生物の種類	ウイルス・細菌・真菌・原虫の大きさの違い、生物学的特徴	予習 教科書の p10-20 に目を通し、微生物の種類と特徴を調べる (60 分) 復習 ウイルス、細菌、真菌、原虫について、大きさと特徴を整理しノート等にまとめる (60 分)
4	形態と機能	細菌細胞の構造と各部位の機能	予習 教科書の p17-19 に目を通し、細菌の構造を調べる (30 分) 復習 グラム染色、細胞壁、荚膜、鞭毛、線毛、芽胞について、構造と機能をノート等にまとめる (90 分)
5	微生物の増殖	増殖に必要な環境因子・栄養因子	予習 教科書の p21-24 に目を通し、細菌の増殖に関わる環境因子や栄養素を調べる (60 分) 復習 栄養素、増殖環境因子 (酸素、温度、浸透圧、pH) について、ノート等にまとめる (90 分)
6	培養法	培養法の種類、増殖曲線	予習 微生物の培養法と増殖曲線 (教科書 p22) について調べる (60 分) 復習 液体培養法、平板培養法、増殖曲線について説明できるように、ノート等にまとめる (90 分)
7	滅菌	滅菌と消毒の定義、滅菌の種類	予習 教科書の p141-143 に目を通し、滅菌と消毒、その違いを調べる (60 分) 復習 各滅菌法の原理をノート等にまとめる (90 分)
8	消毒	消毒薬の種類と用途	予習 教科書の p144-146 に目を通し、消毒の理論と消毒薬を調べる (60 分) 復習 代表的な消毒薬の用途と使用法を確認する (60 分)
9	食品微生物	食品に存在する微生物、食品の変質 発酵食品	予習 教科書の p37-44, p47-67 に目を通し、食品に存在する微生物、および腐敗と発酵の違い、食品の保存について調べる (60 分) 復習 食品の種類と存在する微生物の特徴、食品中の微生物増殖抑制の方法をノート等にまとめる (90 分)
10	感染症 (1)	感染症総論、感染の成立、感染の種類	予習 教科書の p71-79, p94-96 に目を通し、感染の成立や感染症の種類を調べる (90 分) 復習 感染症の概略をノート等にまとめる (90 分)
11	感染症 (2)	消化器感染症とその病原体	予習 教科書の p79-89 に目を通し、食中毒を含む消化器感染症を調べる (60 分) 復習 代表的な食中毒の種類・特徴をノート等に整理する (60 分)

12	感染症（3）	呼吸器感染症とその病原体	予習 教科書のp89-91に目を通し、肺炎・結核・インフルエンザなどの感染症を調べる（60分） 復習 呼吸器感染症の病原体についてノート等にまとめる（60分）
13	感染症（4）	尿路感染症、性行為感染症とその病原体	予習 教科書のp115-118に目を通し各感染症の特徴を調べる（30分） 復習 性行為感染症の予防対策を確認し、ノート等にまとめる（90分）
14	感染症（5）	皮膚感染症、神経感染症とその病原体	予習 教科書のp91-94に目を通し各感染症の特徴を調べる（30分） 復習 病原体の感染経路を確認し、ノート等にまとめる（90分）
15	微生物と免疫	免疫応答、ワクチン	予習 教科書のp147-161に目を通し、抗原になり得る物質の条件を調べる。（60分） 復習 教科書1章-6章の予想問題を解いてみよう（120分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
エキスパート 管理栄養士養成シリーズ 微生物学（第3版）	小林秀光、白石淳	化学同人

◆参考書

書 名	著 者	発行所
図解でよくわかる 発酵のきほん	舘 博	誠文堂新光社

◆関連科目

食品衛生学 食品衛生学実験

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（%）	評価項目	評価比率（%）
定期試験	90	小テスト	10
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲 （補足）			

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

小テストは採点后、授業で模範解答と共に返却し、解説をする。

◆受講上の注意事項及び助言

微生物・感染症に関連するニュースや新聞記事等にも関心を持つこと。講義に取り入れることもある。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後～17:00

受付場所： 授業後の教室または1号館3階 理化学研究室

上記で対応できない場合： 電子メールで質問を受け付けます。

食品学各論Ⅱ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期
担当者氏名 古庄 律

◆授業概要

この講義では、食品学各論Ⅰと同様に健康にとってバランスのよい食品の摂り方を考えることを目標にし、動物性食品、油脂食品、調味食品および嗜好食品に含まれる個々の食品の名前、成分の特徴とその食品を摂取する栄養学的な意義、また、それらを材料とした加工食品の製造について解説する。

◆到達目標

1. 個々の動物性食品の産地、生産量、消費状況を説明できる。
2. 個々の動物性食品の食品学特徴、栄養学的特徴を説明できる。
3. 食用油脂について食品学特徴、栄養学的特徴を説明できる。
4. 調味食品について食品学特徴、栄養学的特徴を説明できる。
5. 香辛料について食品学特徴、栄養学的特徴を説明できる。
6. 嗜好食品について食品学特徴、栄養学的特徴を説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	食肉類 (1)	食肉類の生産・流通	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
2	食肉類 (1)	食肉類の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
3	食肉類 (1)	食肉類の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
4	魚介類 (1)	日本の漁業の現状	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
5	魚介類 (2)	魚介類の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
6	魚介類 (3)	魚介類の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
7	卵類	卵類の生産・流通と食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
8	中間試験	第1回～第7回のまとめ	予習
			復習
9	乳製品 (1)	乳製品の生産と流通	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
10	乳製品 (2)	乳製品の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
11	油脂食品	油脂食品の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
12	調味食品 (1)	甘味料・旨味・塩味調味料の種類と食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
13	調味食品 (2)	発酵調味料 味噌と醤油の食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)

14	香辛料	香辛料の種類と食品・栄養学的特性	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)
15	嗜好食品	嗜好食品の食品栄養学的特性 (チョコレート、茶、コーヒー、 アルコール飲料)	予習 教科書・資料の熟読 (30 分)
			復習 配信資料を利用したノート整理 (60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
食べ物と健康 食品の科学	太田、白土、古庄 編集	南江堂

◆参考書

書 名	著 者	発行所
日本食品成分表 2025		医歯薬出版

◆関連科目

食品学総論、食品学各論Ⅰ、調理学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験 (中間試験を含む)	90	小テスト	
ノート	5	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	5		

(補足)

15 回の授業すべてに遅刻をせず出席することを前提として「成績評価の方法・基準」により評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

中間試験の実施後に解答および解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

事前にアップデートされた講義資料をダウンロードしての PC の持ち込み、または印刷して講義に出席すること。また、各回終了時に復習として手書きでノートを整理しておくこと。

定期試験の際にノートを提出する (評価対象)

◆オフィスアワー

受付時間： 講義開講日 16:10~17:00

受付場所： 1 号館 4 階 研究室 研究室

上記で対応できない場合：指定されたドメインを利用してのメールで受け付ける。

大量調理基礎実習 (1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期
担当者氏名 柴田隆一

◆授業概要

大量調理基礎実習では給食経営管理実習に繋げる基とする大量調理の特性、衛生管理、経営管理及び協働作業を円滑に生産管理ができるように講義、演習、グループワーク、実習等一連の流れを通して理解する。

◆到達目標

1. 大量調理の特性を理解し、給食管理の立案から評価まで一連の作業管理を習得できる。
2. 大量調理における HACCP 管理を基礎とした衛生管理・作業工程表を習得し調理実習に活かすことができる。
3. 献立作成は、適切な材料・分量の把握、および調味%の標準化を理解し、多様な献立へ活用できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	オリエンテーション 大量調理の品質管理 大量調理の調理機器	授業の全体像と概要の進め方(演習・実習)、予習・復習、履修上の留意点などを説明する。グループ実習なので、協働作業の心得、コミュニケーション、身だしなみの諸注意。大量調理の特性と調理機器。HACCP に基づいた衛生管理。	予習 「大量調理」p1～25 を読み HACCP に基づいた衛生管理を理解しておく。また、給食経営管理論の教科書 p178 からの資料⑪と⑫を読み、衛生管理の相違点をまとめておく。(60 分) 復習 大量調理施設衛生管理マニュアルと大量調理機器の重要事項を理解する。(60 分)
2	健康成人を対象とした給食献立の調理 ①	事業所給食施設の調理 50 食作成	予習 事業所給食献立の作業指示書、作業工程表の計画表を確認しておく。(60 分)
3	健康成人を対象とした給食献立の調理 ②		復習 事業所給食献立の栄養管理、作業管理、衛生管理、残菜調査記録表を作成する。(60 分)
4	健康成人を対象とした給食献立 まとめ	原価管理計算 廃棄重量・重量変化・出来上がり重量・盛り残し重量・残菜量・作業時間	予習 原価管理の資料を熟読しておく。(60 分) 復習 原価管理について理解する。(60 分)
5	大量調理の帳票	作業指示書、作業工程表、食材発注日計表の作成	予習:「大量調理」P121～247 を熟読し、献立表、作業指示書、作業工程表の関連を理解しておく (60 分) 復習:作業指示書、作業工程表を理解する (60 分)
6	大量調理の衛生管理	HACCP に基づいた衛生管理 大量調理施設衛生管理マニュアル	予習: 大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読しておく (60 分) 復習: 大量調理施設衛生管理マニュアルを理解する (60 分)
7	調理の実際 ①	洗浄、水切り、切碎、廃棄 大量調理に向く切碎方法	予習: 切碎の資料を熟読しておく (60 分) 復習: 少量調理と大量調理の切碎の違いを理解する (60 分)
8	調理の実際 ②	大量調理機器 バリオクッキングセンターを使用した調理	予習:「大量調理」p9～25 を熟読しておく (60 分) 復習: 大量調理機器について理解する (60 分)
9	調理の実際 ③	ゲル化剤のデザート ゲル状食品の調理性	予習: 調理学で学んだゲル化剤(寒天、ゼラチン、カラギーナン)の特性をまとめておく。「大量調理」p238～247 を熟読しておく (60 分) 復習: ゲル化剤の多様性のデザートを、料理本を参照してまとめておく (60 分)
10	調理の実際 ④	乾物食品の戻し方・調理法	予習:「調理のためのベーシックデータ」p136～141 を熟読しておく。(60 分) 復習: 乾物の戻し方・調理性を理解する。(60 分)
11	調理の実際 ⑤	和え物の調理 (下処理、和え衣、調味)	予習:「大量調理」p43～44 を熟読しておく (60 分) 復習: 和え物を調理する際のポイントを理解する (60 分)
12	展開食の献立作成方法と考え方 ①	エネルギーコントロール食、たんぱく質コントロール食、	予習:「給食施設のための献立作成マニュアル」第 4 章を熟読しておく (60 分)

13	展開食の献立作成方法と 考え方 ②	高齢者食の展開食の 献立作成・発表	復習：特定給食施設（高齢者施設、病院）の献立作成時の注意点を理解する。（60 分）
14	対象別の献立作成	対象者（小学校、高齢者施設、病院）の特性に 応じた献立の作成	予習：施設別（小学校、高齢者、病院）の資料を熟 読し、対象者の特性を理解しておく（60 分） 復習：施設別（小学校、高齢者、病院）の特性に応 じた献立について理解する（60 分）
15	まとめ	大量調理の基礎知識、技術のまとめ	予習：1～14 回目の授業内容を振り返り、理解して おく（60 分） 復習：教科書、配布資料を参照し、総復習を行う （60 分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
①改訂新版 大量調理・品質管理と調理の実践	殿塚婦美子、他	学建書院
②給食施設のための献立作成マニュアル	赤羽正之、他	医歯薬出版
③調理のためのベーシックデータ	女子栄養大学	女子栄養大学出版部

◆参考書

書 名	著 者	発行所
①日本食品成分表 2025	香川 明夫 監修	女子栄養大学出版部
②日本人の食事摂取基準(2025 年版)	佐々木 敏 監修	第一出版

◆関連科目

調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食計画論、給食経営管理論、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	30%	小テスト	10%
レポート	20%	実技（発表・コミュニケーション）	20%
学習に取り組む姿勢・意欲	20%		

（補足）小テストは、必要に応じて複数回実施する。各回の合計点を換算し評価する。レポートは、「必ず期日を厳守して提出すること」「学習内容が明確に記載されていること」を４段階で（３、２、１、０点）評価する。実技は、「グループワークにおいて協働作業を円滑に進めていること」「主体的に取り組んでいること」などについて評価する。

学習に取り組む姿勢・意欲は、「積極的に意見を述べる」「課題に積極的に取り組んでいる」の項目で評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

課題に関し、確認後必要に応じてコメントを記入し返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

グループでの演習、実習を行うので、遅刻・欠席をしない。

各自が授業を集中して聞き、役割に責任を持つこと。

調理実習時には、特に健康管理に十分留意し、10 分前集合、手洗い、身支度の衛生管理を徹底すること。

◆オフィスアワー

受付時間：授業当日、授業終了後～18 時

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室前のメッセージボードを活用する。

応用栄養学Ⅱ (2単位)

開講時期 2年・後期(管理栄養学科)

担当者氏名 小林陽子

◆授業概要

本科目は、保健所及び保健センター等保健分野、子ども部保育分野に30年間行政栄養士として勤務した経験を持つ教員が担当する。それぞれの分野で遂行した乳幼児から高齢者までの実践的な栄養教育や地域の健康づくり・食育の推進のためのネットワークづくり、地域の様々な分野をつなぐコーディネーターとして得た知識や技術を管理栄養士養成に活用する。

応用栄養学Ⅱでは、応用栄養学Ⅰに引き続き、思春期から高齢期に至るまでの各ライフステージ別に成長・発達、加齢に伴う身体の機能の変化、生理的特徴、栄養素の必要量等について、食事摂取基準の科学的根拠にもとづいて理解する。運動・スポーツと栄養、ストレスと栄養、生体リズムと栄養、特殊環境下での栄養代謝の変化等に対応した栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する。

栄養生化学、解剖生理学、病理学、栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学との関連が深い科目であり、対象者を総合的に捉え、理解することを目指す。

◆到達目標

1. 学童期から高齢期における栄養状態や心身機能の特徴にもとづいた基礎的な栄養ケア・マネジメントについて、説明できる。
2. 運動・スポーツと特殊環境条件下における栄養状態や心身機能の特徴にもとづいた基礎的な栄養ケア・マネジメントについて説明できる。
3. 各ライフステージ別食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について説明できる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	学童期の栄養	・学童期の成長・発達、学童期の栄養上の特徴、栄養アセスメント、栄養関連の問題点や疾患と栄養ケア ・小テスト	予習：学童期の成長・発達、特徴についてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)
2	思春期の栄養	・思春期の生理的特徴と課題、栄養アセスメント、栄養関連の問題点や疾患と栄養ケア ・小テスト	予習：思春期の生理的特徴、アセスメント項目についてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)
3	成人期の栄養1	・成人期の生理的特徴と生活習慣の変化、生活習慣改善のための栄養アセスメント ・小テスト	予習：成人期の生理的特徴、生活習慣アセスメント項目についてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)
4	成人期の栄養2	・栄養ケアプログラム、生活習慣病予防と栄養ケア ・小テスト	予習：成人期の栄養ケアプログラムと栄養ケアについてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)
5	成人期の栄養3	・栄養ケアプログラム、生活習慣病予防と栄養ケア ・小テスト	予習：成人期の栄養ケアプログラムと栄養ケアについてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)
6	更年期の栄養	・更年期の生理的变化、栄養アセスメント、更年期からの生活習慣病予防と栄養ケア ・小テスト	予習：更年期の生理的变化、栄養アセスメントについてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)
7	高齢期の栄養1	・高齢期の生理的特徴、高齢期の生活・日常生活指導 ・小テスト	予習：高齢期の生理的特徴についてまとめておく。(30分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60分)

8	高齢期の栄養 2	・高齢期の栄養アセスメント、栄養ケアプログラム ・小テスト	予習：高齢期の栄養アセスメントについてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
9	高齢期の栄養 3	・高齢期の栄養障害とそのケア、生活の質 (QOL) の向上	予習：高齢期の栄養障害についてまとめておく。(30 分) 復習：
10	運動と栄養	・運動時のエネルギー生理的特徴、運動のエネルギー代謝 ・小テスト	予習：運動時のエネルギー代謝についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
11	健康増進と運動	・身体活動・運動基準 2023、運動の効果と健康増進 ・小テスト	予習：身体活動基準 2013 の概要についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
12	スポーツと栄養	・エネルギー供給とスポーツ種目、トレーニングと栄養補給 ・小テスト	予習：スポーツ選手の運動時のエネルギー代謝についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
13	ストレスと栄養	・ストレスについての基礎知識、ストレスと栄養 ・小テスト	予習：ストレスの特徴についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
14	特殊環境と栄養	・特殊環境下における代謝変化、高温・低温環境と栄養、高圧・低圧環境下と栄養、無重力環境と栄養、騒音環境下と栄養 ・小テスト	予習：特殊環境下における生体的変化についてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)
15	食事摂取基準 2	・ライフステージ別食事摂取基準と活用、食事摂取基準の科学的根拠と活用 ・小テスト	予習：ライフステージ別食事摂取基準のポイントについてまとめておく。(30 分) 復習：授業中に配布した資料及び教科書の該当箇所を良く読んで理解し、小テスト問題の正文化、解説を作成する。(60 分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
ステップアップ応用栄養学 2 版	北島幸枝編	化学同人

◆参考書

書 名	著 者	発行所
日本人の食事摂取基準 (2025 年版)	厚生労働省「日本人の食事摂取基準 (2025 年版)」策定検討会報告書	第一出版
食事摂取基準 理論と活用	日本栄養改善学会 監修	医歯薬出版
応用栄養学 ライフステージ別・環境別	日本栄養改善学会 監修	医歯薬出版

◆関連科目

専門基礎分野 (栄養生化学、解剖生理学、病理学・基礎栄養学)

専門分野 (栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学)

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト	20
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

（補足）課題の提出については、必ず締め切り日までに提出すること。

学習に取り組む姿勢・意欲については、授業時の発言、質問等態度から総合的に評価する。

応用栄養学Ⅱは、臨地実習Ⅲ・Ⅳの履修基準となっている。積極的に授業に臨んでください。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

授業内で小テストを実施した後、答え合わせをする。課題として問題の正文化及び解説を作成する。

レポート等提出物は添削し、返却する。または、授業内で総評を述べる。

◆受講上の注意事項及び助言

○栄養士実力認定試験 A ランク取得に向けての知識と能力を身に付けることができる。

○小テストを行うので、必ず復習をする。

○欠席厳禁。遅刻・早退 3 回で 1 回欠席とする。

○授業に必要な資料（食品成分表、臨床検査の本、料理の本など）は、各自で用意しておく。

○管理栄養士にとって不可欠な科目であるため、興味を持って取り組んでください。事前に予習をしてくることで講義内容が理解できます。また、確認テストの結果を見直して、教科書の該当箇所にラインかマーカーを引いたり、授業時に配布された資料や教科書の該当箇所、参考書も利用してノート整理をしながらまとめるとより一層理解が深まります。My ノートを随時作成しておけば試験対策の時も役立ちます。

◆オフィスアワー

受付時間：新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること。

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室の前のメッセージボードを活用する。

栄養教育論Ⅲ

(2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2年・後期

担当者氏名 高橋美恵子 田中 広美

◆授業概要

栄養教育論Ⅲでは、栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学修したことを踏まえ、ライフステージ別、ライフスタイル別障害者の栄養教育を行う場合の栄養管理の特性、栄養教育の課題、栄養教育方法についての知識・技能の修得を目指す。また、対象者の背景を把握し栄養教育に応用する。各ライフステージ別に、栄養カウンセリングを実施する際に重要となる心構えや具体的留意点についても学ぶ。学童期の指導に関しては、栄養教諭としての勤務経験者が、実際に全国各地の学校で使用されている食に関する指導や指導資料を活用しながら実践力につなげる授業を行う。また成人期以降の指導に関しては病院管理栄養士の勤務経験者が医療現場における指導や指導媒体を活用しながら実践力につなげる授業を行う。

◆到達目標

1. ライフステージ別に栄養教育の場に応じた栄養教育の方法について説明できる。
2. 対象者のライフスタイル・食生活の特徴および栄養教育のポイントを説明できる。
3. 栄養教育を行う上で、栄養カウンセリングの必要性を理解し、ライフステージ別に応用することができる。
4. グループカウンセリングの意義と特性、技法について理解し説明できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	オリエンテーション 妊娠・授乳期の栄養教育 (高橋 田中)	オリエンテーション 妊娠期・授乳期栄養の特徴と栄養教育	予習 応用栄養で学んだ身体的な特徴を読む (30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60分)
2	乳幼児期の栄養教育 (田中)	乳幼児期のライフスタイルと食生活の特徴 保育所、幼稚園を拠点とした食育	予習 乳児期・幼児期の身体的特徴を読む (30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60分)
3	学童期の栄養教育 (田中)	学童期のライフスタイルと食生活の特徴 学童期の食育の特徴 学校を拠点とした食育	予習 食育・発達過程に係る主な特徴を読む (30分)
			復習 学習指導案を作成する (120分)
4	学童期の栄養教育 (田中)	小学校の食育の実践と課題	予習 食育事例を読む。(30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60分)
5	思春期の栄養教育 (田中)	思春期にみられる生活習慣の問題と栄養教育のポイント	予習 思春期の身体的特徴を読む (30分)
			復習 授業の内容のプリントをまとめる (60分)
6	成人期の栄養教育 (田中)	成人期のライフスタイルと食生活の特徴 と問題点 健康・栄養教育のポイント	予習 成人期の特徴を読んでおく (30分)
			復習 授業の内容のプリントをまとめる (60分)
7	成人期の栄養教育 (高橋)	生活習慣病の一次、二次予防のための栄養教育と傷病者の栄養教育のポイント	予習 特定保健指導の流れを読んでおく (30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる。(60分)
8	更年期の栄養教育 (高橋)	更年期の特徴と健康・栄養教育のポイント と支援	予習 更年期の特徴と支援の必要性を読む (30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60分)
9	高齢期の栄養教育 (高橋)	高齢者のライフスタイルと食生活の特徴 介護予防の健康・栄養教育のポイント	予習 高齢者の食生活、栄養の特徴を読む (30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60分)
10	栄養カウンセリングとは (高橋)	栄養カウンセリングの基本と流れ 栄養カウンセリングの演習 グループカウンセリングのポイント	予習 栄養カウンセリングの基本を読む (30分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60分)
11	グループディスカッション (高橋)	課題について討議・資料作成	予習 課題について自分の考えをまとめる (60分)
			復習 資料作成 (120分)
12	グループディスカッション (田中)	課題について討議・資料作成	予習 実践例を個人で調べる (60分)
			復習 資料作成 (120分)
13	ライフステージ別の特徴と留意点、事例等発表① (高橋 田中)	ライフステージ別栄養教育の実施と留意点、ディスカッション内容等をグループ毎に発表①	予習 発表準備 (60分)
			復習 発表内容をまとめる (60分)

14	ライフステージ別の特徴と留意点、事例等発表② (高橋 田中)	ライフステージ別栄養教育の実施と留意点、ディスカッション内容等をグループ毎に発表②	予習 発表準備、終了者は修正改善点の確認 (60 分)
			復習 発表内容をまとめる (60 分)
15	まとめ (高橋 田中)	授業のまとめ	予習 配布プリントを読む (20 分)
			復習 授業の内容をプリントにまとめる (60 分) 定期試験に向けて

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
栄養教育論 改定第5版	武見ゆかり、足立淑子、木村典代、林美美	南江堂

◆参考書

書 名	著 者	発行所
栄養カウンセリング論	赤松利恵、永井成美	化学同人

◆関連科目

栄養教育論Ⅰ・Ⅱ、栄養教育論実習、応用栄養学Ⅰ・Ⅱ、

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	60	小テスト (中間テスト)	
レポート	15	実技 (発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	5		

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・グループワークとして各ライフステージ別に栄養教育の留意点と実施例、ディスカッションテーマに沿ったディスカッションを行い、スライドにまとめてグループ毎に発表。発表は1回課し、提出日時を守り、適切にまとめられているかを6段階 (20点、16点、12点、8点、4点、0点) で評価する。
- ・レポートは、授業内でライフステージ・健康状態別の特徴と栄養教育のポイント等についてまとめる。提出日時を守り、誤字・脱字がなく、適切にまとめられているかを4段階 (15点、10点、5点、0点) で評価する。
- ・発表時の感想等をまとめる。後日返却する。
- ・学習に取り組む姿勢・意欲は、授業内での発言、意欲的に取り組んでいるかを評価する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・予習復習を十分に行うこと。授業内で予習復習について詳しく指示する。
- ・国家試験でも出題される科目なので、授業の内容はまとめておくこと。
- ・各ステージの生活背景や今の社会で問題となっていることや健康・栄養教育について実際に実施されていることについても、常に情報を得ておくこと。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業当日、授業終了後～17時まで

受付場所： 授業担当者研究室

上記で対応できない場合：研究室入口掲示板に要件を記入のこと。メールでも対応する。

高橋美恵子 (takahashi-mie@tsc-05.ac.jp)

田中 広美 (tanaka-h@tsc-05.ac.jp)

栄養教育論実習

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年後期

担当者氏名 高橋 美恵子

◆授業概要

本科目は国立病院機構に 37 年勤務し、患者の栄養食事指導を行ってきた経験を持つ教員が担当する。授業では、栄養教育論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した専門的知識の基本を用いて、栄養教育の実践活動において必要とされることがらについて実習を通して学ぶ。自身の食生活調査を実施し、その結果から PDCA サイクルを活用した栄養教育マネジメントの実際や行動変容技法の応用、対象者の気持ちを体験的に学ぶ。また、ライフステージの対象集団に合わせて、グループワークでライフステージ別の特徴、問題点、指導ポイントを話し合い、栄養教育計画の立案、教材作成、ロールプレイング等を行い、栄養教育のスキルや実践力を養う。

◆到達目標

1. 食や健康に関する知識、態度を身につけることができる。
2. 食生活の実態を把握し問題点を抽出できる。
3. 学習目標を定め、対象者にあった学習内容および方法を選択できる。
4. 学習指導案を立案できる。
5. 対象者にあった教材を作成できる。
6. プレゼンテーション能力を身につけ栄養教育を実施できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	オリエンテーション	授業の目的、進め方、評価についての説明。 食生活調査の実施方法の説明。	予習：シラバスを読み、栄養教育論Ⅰ・Ⅱの復習をする。(60 分) 復習：3 日間の食生活調査を行う。(60 分)
2	個人を対象とした栄養アセスメント①	3 日間の食生活調査から消費エネルギー量、栄養価の算出。自覚症状、ロコモ度テストの実施。	予習：食生活調査のデータ整理 (30 分) 復習：食生活調査データのまとめ (60 分)
3	個人を対象とした栄養アセスメント②	食生活調査のまとめとアセスメント、問題点の把握。自己診断疲労度チェック等調査。目標設定とセルフモニタリングシートの作成。	予習：食生活を振り返り、問題点を抽出する。(60 分) 復習：次の発表原稿を作成 (60 分)
4	個人を対象とした栄養教育計画	行動変容目標の発表と個人レポート提出。 集団栄養教育のためのグループ分けと対象者の決定、特徴のまとめ。	予習：発表の予行練習。(20 分) 復習：ライフステージ別特徴、問題点のまとめを行う。(30 分)
5	集団を対象とした栄養教育計画①	対象者の特徴・問題点、指導ポイント、テーマ設定、目標をグループ討議法にて話し合う。内容はクラス全体に発表する。	予習：ライフステージ別指導ポイント、テーマ設定をまとめる (30 分) 復習：栄養教育計画書の作成。(60 分)
6	集団を対象とした栄養教育計画②	各自で考えた栄養教育計画書を用いて、班員で話し合い、栄養教育計画書、シナリオを作成する。	予習：授業展開の方法や対象者にあった教材の選び方を調べる。(30 分) 復習：シナリオを完成させる (60 分)
7	集団を対象とした栄養教育計画③	栄養計画書に沿った、指導案の作成及び教材を各班で作成する。	予習：各自で指導案を考える。(60 分) 復習：教材の作成を行う。(60 分)
8	集団を対象とした栄養教育計画④	栄養教育の教材作成とロールプレイングのリハーサルを各班で行い、教材等の最終修正を行う。	予習：教材の作成を行う。(60 分) 復習：指導案等の修正を完成させる。(60 分)
9	ロールプレイング①	集団教育の実施（幼児・学童・思春期） 教育班、対象班、評価者に分かれ実施する。	予習：ロールプレイングの練習を行う。(60 分) 復習：ロールプレイングの反省点・改善点をまとめる (30 分)
10	ロールプレイング②	集団教育の実施（青年期・成人期・高齢期） 教育班、対象班、評価班に分かれ実施する。	予習：ロールプレイングの練習を行う。(30 分) 復習：ロールプレイングの反省点・改善点をまとめる。(60 分)
11	栄養教育の評価と改善	対象者や評価班からの評価の集計、ビデオを視聴し、集団教育プログラム等の改善点を整理する。発表用パワーポイントの作成。	予習：栄養教育計画書の改善案を考える。(30 分) 復習：発表用のパワーポイントを仕上げる。(30 分)
12	発表とグループレポート作成	実施したプログラムの評価、改善点を発表する。個人レポートの作成。	予習：発表の練習を行う。(30 分) 復習：他の班の発表から学んだことをまとめる。(30 分)
13	個人を対象とした栄養教育の評価	各種チェックシート、セルフモニタリングの結果をまとめ評価をする。発表用パワーポイントの作成。	予習：セルフモニタリング用紙の結果をまとめる。(30 分) 復習：発表用のパワーポイントを完成させる。(60 分)

14	個人を対象とした栄養教育のまとめ発表	セルフモニタリングの評価の発表 個人レポートのまとめと提出	予習：発表の練習を行う。(10分)
			復習：セルフモニタリングを行って学んだことをまとめる。(30分)
15	まとめ	栄養士実力認定試験の過去問の正文化、 担当問題をスライドで発表する。 授業のまとめ	予習：担当過去問の解答をパワーポイントにまとめる。(20分)
			復習：授業で学んだことを再確認し、定期試験に向けて学習する。(120分)

*セルフモニタリングシートは8週間実施(280分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
栄養教育論 (改訂第5版)	武見ゆかり、足立淑子、木村典代	南江堂
応用栄養学 第2班	北島幸枝 編	化学同人

◆参考書

書 名	著 者	発行所
栄養科学シリーズ栄養教育論実習 (第2版)	片井加奈子、川上貴代、久保田恵	講談社

◆関連科目

栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、応用栄養学、公衆栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	0
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	15
学習に取り組む姿勢・意欲	15		

(補足)

・レポートの提出については、個人と集団を課し、評価する。所定の書式や指示に従い、各自の考えをしっかりと記載したうえで、誤字・脱字がなく必ず締め切り日までに提出すること。個人12点、集団8点の配点とし、それぞれ5段階(4点、3点、2点、1点、0点)で評価する。

・実技は、個人及び集団での発表に向けての準備、内容を評価する。またロールプレイングの際は、班員同士でのコミュニケーションも評価の対象とする。個人5点、集団10点の配点とし、6段階(5点、4点、3点、2点、1点、0点)で評価する。

・学習に取り組む姿勢は、授業に向けての事前学習に取り組んでいる姿勢、個人及び班での作業に積極的に取り組んでいるか、また班作業においては、各自の意見を積極的に出し合い、他者の意見にも耳を傾け、全員で協力して取り組んでいるかも評価の対象とする。

◆課題 (レポート、実技等) のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし授業内で総評を述べる。

◆受講上の注意事項及び助言

遅刻・欠席はせず、積極的に参加をする。班での作業では、積極的に意見を出し合い、班員全員で協力して取り組むこと。他の授業で学んだ事を応用しての授業であるため、各自で事前学習をしっかりと臨むこと。

欠席した場合は、必ずプリントを取りに来ること。

◆オフィスアワー

受付時間：授業日 授業終了後～17時30分

受付場所：栄養教育研究室(1号館3F)

上記で対応できない場合:研究室前のメッセージボードの活用及び電子メール(takahashi-mie@tsc-05.ac.jp)

臨床栄養学Ⅰ

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期
担当者氏名 宮内 眞弓

◆授業概要

本科目は、国立病院機構に 34 年勤務し、患者の栄養管理に携わり、病院における栄養管理について経験を生かした授業を行う。15 回の授業全体を通して、病院栄養士として必要とされる献立作成、患者の栄養管理、多職種との協働活動、症例検討について学修する。

臨床栄養学Ⅰでは、傷病者及び要支援者・要介護者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理、つまり栄養ケアのプラン、実施、そして評価とする総合的なマネジメントについて学修する。内容としては、栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について具体的に理解したうえで、栄養管理の技術を修得する。各種計測による評価・判定やベッドサイドでの栄養指導の実習、医療・介護制度や医療チームにおける管理栄養士の役割を理解できるように授業をすすめる。授業はパワーポイントとプリントを用いた形式をとる。

◆到達目標

1. 学生が、臨床栄養学の意義、目的を理解し、医療チームの一員として管理栄養士のあり方を説明できる。
2. 学生が、傷病者に対する栄養アセスメント指標（臨床検査・臨床診査・身体計測・食事調査等）を修得し適切に活用できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習
1	オリエンテーション 臨床栄養学の基礎	医療分野における管理栄養士の役割について。必要な知識と資質について確認する。	予習:第1章 臨床栄養の基礎について学習しておく。(30 分) 復習:臨床栄養学の基礎である基本的な用語を説明できる様にする。(30 分)
2	チーム医療、在宅医療	チーム医療、在宅医療の意義と目的、栄養支援、QOL 向上と栄養管理等について学ぶ。	予習:第2章 チーム医療、在宅医療について学習しておく。(20 分) 復習:医療制度について自分でノートをまとめ参照し確認する。チーム医療について説明できるようにする。国家試験でも重要なところでありしっかりまとめておく。(30 分)
3	栄養ケアマネジメントの概要	栄養ケアマネジメントの定義・構造について学ぶ。	予習:第3章 栄養ケアマネジメントの概要について学習しておく。(30 分) 復習:ケアマネジメントについて理解する。特にスクリーニング方法を実施できるように理解をしておく。(30 分)
4	栄養アセスメント 1	栄養アセスメントの意義、目的および栄養アセスメントの特徴を学ぶ。	予習:第4章 栄養アセスメントについて学習しておく。(30 分) 復習:必要量、たんぱく質、水分のアセスメントを、栄養状態の評価指標を整理し説明できるよう復習する。(30 分)
5	栄養アセスメント 2	食事摂取量調査を学ぶ。	予習:第4章 栄養アセスメントについて学習しておく。(30 分) 復習:食事摂取量調査方法を理解する。自分の食生活の食事記録をつけてみる。(30 分)
6	栄養ケア計画のプロセス	栄養ケアの目標設定と計画作成、モニタリングと評価について学ぶ。	予習:第5章 必要栄養量の算出方法をまとめる。各栄養素の評価を理解する。(20 分) 復習:自分でまとめたノートを参照し確認する。(20 分)
7	食事療法、栄養補給方法	食事療法と栄養補給法（歴史、特徴、活用）について学ぶ。確認テスト	予習:第6章 食事療法、栄養補給方法について学習しておく。(40 分) 復習:経口摂取、経腸栄養、静脈栄養について理解する。(60 分)
8	食事療法、栄養補給方法	目的、適応疾患、投与ルート、経腸栄養剤、輸液について学ぶ。	予習:第6章 食事療法、栄養補給方法について学習しておく。(60 分) 復習:各栄養ルートの特徴をノートに整理し、説明できるように復習する。(60 分)
9	薬と栄養・食物相互作用	栄養・食物が医薬品に及ぼす影響、医薬品が栄養・食事に及ぼす影響など学ぶ。 確認テスト	予習:第7章 薬と栄養・食物相互作用について学習しておく。(20 分) 復習:薬と栄養・食事の相互作用を理解し、薬と食事の関係を自分でノートにまとめる。国家試験で必ず出題されるところですのでしっかりまとめておくこと。(20 分)
10	栄養ケアの記録	栄養ケア記録の必要性、記録の意義を学ぶ。	予習:第8章 栄養ケアの記録について学習しておく。(20 分) 復習:SOAP での記録のかき方を理解する。症例で練習をしてみる。(30 分)
11	栄養教育の実践	栄養指導の技法について学ぶ。	予習:第9章 栄養教育の実践について学習しておく。(20 分) 復習:栄養指導の技法を理解する。臨床栄養実習Ⅰで実践するので必要事項を整理しておく。(20 分)

12	栄養ケアのアセスメント	栄養ケアにおけるモニタリングと栄養評価の必要性、方法について学ぶ。	予習：第10章 栄養ケアのアセスメントについて学習しておく。(20分) 復習：モニタリングの必要性と方法を理解する。(60分)
13	糖尿病疾患について	症例検討するための糖尿疾患を学ぶ	予習：糖尿病について調べる (30分) 復習：糖尿病疾患患者のアセスメントを理解する。(60分)
14	栄養アセスメント	症例検討について学ぶ	予習：第4章栄養アセスメントについて復習をしておく (20分) 復習：栄養アセスメントの方法を理解する (60分)
15	まとめ	臨床栄養学基礎について復習する。	予習：第1～10章 ポイントを復習しておく。(20分) 復習：自分でまとめたノートを参照し確認する。(20分)

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
臨床栄養学 基礎編	本田佳子 土江節子 曾根博仁	羊土社

◆参考書

書 名	著 者	発行所

◆関連科目

専門基礎分野（栄養生化学、解剖生理学、病理学、食品学、調理学）

専門分野（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、公衆栄養学、給食経営管理論）

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）

- ・学修に取り組む姿勢・意欲 10%については、授業内の発言、積極的な提案などを3段階評価（10、5、0点）で評価を行う。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

- ・確認テストは、SharePointで行います。解答解説を行う。発表等については発表後コメントする。提出物がある場合はコメントをつけ返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・管理栄養士として、また社会人として求められる資質を身につけ磨くことをサポートする。
- ・欠席の場合課題があります。未提出の場合は減点対象となります。

◆オフィスアワー

受付時間：授業終了後 随時

受付場所：教室又は研究室

上記で対応できない場合：研究室ドアのメールアドレス及びメール(miyauchi-m@tsc-05.ac.jp)で対応します。

公衆栄養学Ⅰ（2単位）（管理栄養学科）

開講時期 2年・後期

担当者氏名 佐藤 ひろ子

◆授業概要

本科目は、地域の個人または集団の健康の保持増進と疾病予防を目的に、人々の健康と食をめぐる問題を社会の組織的活動を通して解決し、人々の健康を円増進していく実践的科学である。本授業は、自治体・保健所等の行政栄養士を経験し実際に政策に携わった教員が担当し、国・都道府県・市町村の連携や地域住民ボランティア及び企業等の関わりについて指導する。

公衆栄養学は人間集団を対象とする栄養学であり、栄養の改善、健康の保持増進し QOL の向上を目指す諸活動である。公衆栄養活動はこれまでどのように展開してきたのか、また、現在どのような栄養政策や取り組みが実施されているかを理解し、今後、地域（個人・集団）を取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養プログラムの計画(Plan)・実施(Do)・評価(Check)・改善(Act)の総合的なマネジメント理論とその評価方法を学習する。さらに各種公衆栄養プログラムの調整、人的資源などの社会的資源の活用、健康・栄養情報の管理、コミュニケーションなどの仕組みを理解する。

また、地域・職域の課題を見出し、適切な栄養関連サービスを提供するために必要な公衆栄養プログラムや施策を多職種連携の中で、科学的、理論的に提案できるよう知識と技術を身に付ける。

◆到達目標

1. 行政栄養士としての知識・技能を修得することができる。
2. 保健・医療・福祉・介護システムの中で、公衆栄養活動の意義が説明できる。
3. わが国並びに諸外国の健康・栄養問題に関する動向について、諸要因を把握し課題を分析する能力を身につける。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	公衆栄養学の概念	公衆栄養学は人間集団を対象とする栄養学であり、栄養改善、健康の保持・増進、生活の質(QOL)の向上に資する諸活動を企画、実施、評価するために必要な知識と技術に関する科学であることを理解する。	予習：学生の住所地の保健所・保健センターの業務を調べる(60分) 復習：保健所・保健センターに勤務する行政栄養士の業務をまとめる(40分)
2	公衆栄養活動の基本と展開過程	公衆栄養活動の多くは栄養施策として、各種の保健・医療・福祉・介護システムと密接なつながりのなかで実施が図られていることを理解する。また、公衆栄養活動の歴史を整理し、少子・高齢化社会とその影響について理解する。	予習：公衆栄養活動の歴史と時代背景を事前学習(40分) 復習：公衆栄養活動の歴史をまとめる(80分)
3	ヘルスプロモーションのための公衆栄養活動	公衆栄養活動は、ヘルスプロモーションを通じて人びとの QOL の向上を目指すものであり、自己管理能力付与が有用であることを理解する。また持続可能性を踏まえた公衆栄養活動について理解する。	予習：ヘルスプロモーションが目指すもの、またその公衆栄養活動を進めるうえで重要なことについてまとめる(60分) 持続可能性を踏まえた公衆栄養活動についてまとめる(60分)
4	健康・栄養問題の現状と課題 食事の変化	健康・栄養問題が、食環境の変化と密接に関係していることを理解する。 エネルギー、栄養素摂取量、食品群別摂取量、料理・食事パターンの変化と現状を認識し今後の課題や必要な対策を考える	予習：健康・栄養問題の現状と課題について(60分) 復習：国民健康・栄養調査結果の年次推移から栄養摂取量の変化を事後学習(60分) 1, 2, 3, 4分野の小テストの学習(60分)
5	食生活の変化	食事の変化を概観する手段や望ましい食習慣への行動変容に結びつけるための食知識、食態度、食スキルを理解する。	予習：生活習慣病と社会背景についてまとめる(60分) 復習：食行動、食知識、食態度、食スキル等の変化について年代別の特徴をまとめる(60分)
6	食環境の変化	食品の生産・流通の変化や食品ロス等の食情報について理解する。また、フードバランスシート（食料需給表）や食料自給率の変化と現状を認識し今後の必要な対策を考える。	予習：食料需給表について各種自給率についてまとめる(60分) 復習：食生活の変化から健康増進政策の内容についてまとめる(60分)
7	栄養政策 わが国の公衆栄養活動	栄養政策は国や地方公共団体によって行われる公の活動であり、その組織や人材等の役割について理解する。	予習：公衆栄養関連法規と管理栄養士との関係について事前学習(60分) 復習：都道府県および市町村における行政栄養士の役割と業務についてまとめる(60分)
8	公衆栄養関連法規 わが国の管理栄養士・栄養士制度	1) 地域保健法 2) 健康増進法 3) 食育基本法 4) 栄養士法：管理栄養士・栄養士制度の沿革	予習：公衆栄養関連法規中のわからない用語についてまとめる(60分) 復習：地域保健法、健康増進法、食育基本法の成立の経緯・意義についてまとめる(60分) 5, 6, 7, 8分野の小テストの学習(60分)

9	国民健康・栄養調査	1)調査の目的 2)調査の沿革 3)調査の内容・方法・過去の調査結果の概要等	予習：国民健康・栄養調査の概要について事前学習(60分) 復習：国民健康・栄養調査内容を年次別にまとめる(60分)
10	公衆栄養活動実施に関する指針・ツール	1)食生活指針の変遷、内容等 2)食事バランスガイド内容、活用法等 3)健康な食事の普及 4)健康づくりのための身体活動基準 2013	予習：指針やツールの作成背景について事前学習(60分) 復習：公衆栄養活動実施の際、どのように利用されるかまとめる。(60分)
11	国の健康増進基本方針と地方計画	わが国の健康づくり計画の策定・評価のための(国民健康・栄養調査)を理解する。基本方針の推進と地方健康増進計画について	予習：国の健康増進基本方針の変遷について事前学習(60分) 復習：「健康日本21」の基本方針と地方計画の違いについてまとめる。(60分)
12	食育推進基本計画策定の目的と内容	1)食育基本法と食育推進基本計画 2)食育の推進と地方計画 3)第3次食育推進基本計画 4)食育推進と地方計画	予習：「食育基本法」の概要の事前学習(40分) 復習：第1次、第2次、第3次の食育推進基本計画の改正要点をまとめる。(40分) 9, 10, 11, 12分野の小テスト学習(40分)
13	諸外国の健康・栄養問題の現状課題	国際的な健康・栄養問題について、先進国や開発途上国の現状と課題を学び、グローバルな視点に立った健康・栄養問題を理解する。	予習：先進国と後進国の保健統計や人口統計の事前学習(60分) 復習：先進国と開発途上国の現状と課題についてまとめる(60分)
14	諸外国の健康・栄養政策	国際的な栄養行政組織の施策や食事摂取基準、食生活指針、フードガイドについて学ぶ。	予習：国際的な栄養行政機関についてまとめる(60分) 復習：先進国の健康・栄養政策を比較してまとめる。13, 14分野の小テスト学習(60分)
15	栄養政策まとめ	わが国の栄養政策及び諸外国の栄養政策の現状を理解する。	予習：日本の健康・栄養問題と諸外国の健康・栄養問題について事前学習(60分) 復習：栄養政策の現状と今後についてまとめる(60分)、定期試験のためのまとめ学習(60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
公衆栄養学	酒井徹・郡俊之・中本真理子編著	講談社
管理栄養士・栄養士必携		第一出版

◆参考書

書名	著者	発行所
国民衛生の動向		厚生労働省
食育白書		農林水産省
食事摂取基準(2025年版)		厚生労働省

◆関連科目

公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅰ・Ⅱ、給食計画論、給食経営管理論、公衆衛生学などに関連する。

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率(%)	評価項目	評価比率(%)
定期試験	60	小テスト	
レポート	30	実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	10		

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

採点し必要に応じてコメントをして返却する。ミニテスト等は解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

授業に集中して聞くことが重要である。どこ(何)がわからないのかを明らかにし、質問あるいは予習・復習で確認をすること。理解できないところは、質問するかオフィスアワーを利用し、担当教員に確認する。配布する資料は、教科書と共に繰り返し復習すること。また、資料は、ファイルし教科書同様に扱うこと。

◆オフィスアワー

受付時間：授業終了後または授業当日の16:30～18:00

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室前のボードを活用する。

給食経営管理実習Ⅰ

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期

担当者氏名 風見 公子 柴田 隆一

◆授業概要

給食計画論で学習したことをもとに、大量調理の計画と実施及び効果判定について実習し、特定給食施設の管理技術および考え方を習得し、事業所の単一定食の給食を提供する。

1 回目～4 回目までは、始めに講義を行い、当日の内容を説明し、グループディスカッションを通して、給食に必要な帳票類、予定献立を作成する。5 回目～13 回目はグループワークで、喫食者に残菜の少ない美味しい給食の提供を行う。

14 回目、15 回目では、各班のデータをまとめ、給食の評価をし、プレゼンテーションを行うアクティブラーニング形式で進める。

◆到達目標

1. 対象集団の給与栄養目標量の設定、食品構成、献立作成、作業計画、食材の購入、調理、配膳、下膳、清掃作業、評価のための各種調査を実施できる。
2. 給食業務の中から題材を選択し、作業の標準化など改善方策を考えることができる。
3. 上記の作業を行うことによって給食の運営・管理に必要な知識や考え方が応用できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	給食の概要 栄養・食事管理の概要 栄養・食事の計画	授業の概要説明、実習の諸注意、役割分担の説明、献立作成の要領、給与栄養目標量の設定、献立の立案、など	予習：献立作成の要領(給食計画論配布プリント)を読み返しておく。(120 分) 復習：献立作成し、提出する。(180 分)
2		給食計画の立案、給食室(厨房)の説明、品質管理と調理の実際、作業計画	予習：食品の重量、調味パーセント(大量基礎実習配布プリント)を読み返しておく。(60 分) 復習：実施したテストで確認する。(60 分)
3	栄養・食事のアセスメント 栄養・食事の計画 安全・衛生の概要	大量調理の基礎、食品構成表の作成、献立作成、作業計画の作成	予習：大量調理の基礎(調味、下味、ゆで物、あえ物、サラダの標準化)を読む。(60 分) 復習：実施したテストで確認する。(60 分)
4		栄養管理表・作業管理表の作成、給食の評価業務など	予習：大量調理の基礎(煮物、焼き物、蒸し物、揚げ物、炒め物の標準化)を読む。(60 分) 復習：実施したテストで確認する。(60 分)
5	栄養・食事計画の実施、評価、改善	給食の実施(事業所給食) 1ー①	予習：大量調理における各過程での栄養管理、生産管理、衛生管理、品質管理、作業管理などを情報共有し、班全員が理解する(シミュレーション)(120 分) 復習：給食の実施について、帳票を作成し提出する。(120 分)
6		給食の実施(事業所給食) 2ー①	
7	給食の品質の標準化、評価、改善	給食の実施(事業所給食) 3ー①	
8	原価、食材、生産(調理)と提供	給食の実施(事業所給食) 1ー②	
9		給食の実施(事業所給食) 2ー②	
10	安全・衛生の実際	給食の実施(事業所給食) 3ー②	
11	生産(調理)施設・設備設計	給食の実施(事業所給食) 1ー③	
12	食事環境の設計と設備	給食の実施(事業所給食) 2ー③	
13	事故・災害時対策	給食の実施(事業所給食) 3ー③	

14	栄養・食事計画の評価、改善	給食業務の評価（まとめ、パワーポイントを使用した発表） 報告書の作成	予習：給食業務の実施に対する評価を行う。（120分）
15	給食の品質の標準化の評価、改善		復習：報告書の作成を行い、提出する。（120分）

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
プリントファイルの配布	東京聖栄大学給食経営管理研究室	東京聖栄大学給食経営管理研究室
新調理システム対応 給食経営管理理論実習・演習	大原栄二、近江雅代、風見公子他	建帛社
改訂新版 大量調理 －品質管理と調理の実際－	殿塚婦美子、他	学建書院

◆参考書

書 名	著 者	発行所
八訂 食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部
日本人の食事摂取基準 2025 年版	厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書	第一出版

◆関連科目

給食計画論、給食経営管理論、栄養教育論、大量調理基礎実習、給食経営管理実習Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	30	小テスト	10
報告書	30	実技（発表・コミュニケーション）	15
学習に取り組む姿勢・意欲	15		

（補足）報告書の30%については誤字・脱字がなく、個人の主張が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。小テストの10%については、5回実施し、適切に解答されていれば、1回につき2点つける。学習に取り組む姿勢・意欲15%は、「積極的に意見を述べる」「チームをリードして進める努力をしている」「課題に対して指示が無くても積極的に取り組んでいる」の3項目について評価する。発表・コミュニケーションは、14回、15回に実施する発表で教員及び学生に評価表を渡し、その点数で評価する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメント等を記載し授業内に返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

班単位での実習になるので、各自が責任を持って役割分担された作業を行うこと。また、班員に迷惑をかけるので遅刻・欠席はしないこと。

大量調理を行うので、衛生管理の徹底をはかる。特に身支度、手洗い等自己の衛生管理を徹底する。

授業に必要な資料（料理の本など）は各自で用意しておくこと。

◆オフィスアワー

受付時間：授業当日、授業終了後～18時

受付場所：担当者の研究室

上記で対応できない場合：研究室前のメッセージボードの活用、

または、電子メールでも対応：風見（kazami-k@tsc-05.ac.jp）、柴田（shibata-r@tsc-05.ac.jp）

道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の指導 (2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期
担当者氏名 有村久春

◆授業概要

道徳・総合的な学習の時間・特別活動の内容について、授業回数 15 回を以下の 3 つに分けて行う。

(第 1 回～第 5 回) 道徳教育：教育基本法等に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己や人間の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動であることを指導する。

(第 6 回～第 10 回) 総合的な学習の時間：探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力育成を目指す時間であることを理解し、それに必要な指導計画の作成および具体的な指導の方法、学習活動の評価に関する知識・技能等を指導する。

(第 11 回～第 15 回) 特別活動：特別活動の意義やその目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点の重要性を指導する。また、学年ごとの活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域や他校と連携した組織的対応など、特別活動の特質を踏まえた実践例やそれに必要な知識や素養について指導する。＊講義に即応し、具体資料の提示、グループ討論やプレゼン発表等を行う。

◆到達目標 ＊ 栄養教諭の立場から、以下の 1～3 の内容を理解することができる。

- 1 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。
 - ・道徳の本質（道徳とは何か）を説明し、その歴史や現代課題（いじめ・情報モラル等）を理解する。
 - ・子供の心の成長と道徳性の発達について理解する。
 - ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解する。
- 2 総合的な学習の時間の意義やその目標及び内容を定める際の考え方を理解することができる。
 - ・総合的な学習の時間の意義、目標・内容、教育課程上の役割、横断的な資質・能力等を理解する。
 - ・各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性を理解する。
 - ・主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画を作成することの重要性を理解する。
- 3 特別活動の意義、目標及び内容を理解することができる。
 - ・特別活動の目標・内容を理解し、教育課程における位置付けや各教科等との関連を理解する。
 - ・集団活動、とくに学級活動・ホームルーム活動の特質を理解する。
 - ・教師の組織的な指導の在り方、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解する。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	道徳教育の導入 ―「道徳」とは何か	「道徳」とは何かを考える	予習 シラバスを読んでおく (60 分)
			復習 道徳の意味をノートにまとめる (90 分)
2	道徳教育の意義 ―社会生活における道徳の役割	法的な意味から道徳教育の現状と社会生活上の課題を議論する	予習 道徳・モラルの意味を考える (60 分)
			復習 法令の内容から道徳教育の目的を理解する (教職六法・学習指導要領) (90 分)
3	学習指導要領における道徳の目標及び内容	道徳の目標・内容の理解し、栄養教諭に求められる具体内容を知る。	予習 道徳の解説編第 1・2 章を読む (60 分)
			復習 道徳の目標・内容をまとめる (90 分)
4	子供（人間）の道徳性の発達理論と課題	今日的な課題から道徳の在り方を考察し、具体策を議論する	予習 テキスト（解説）第 1 章を読む (90 分)
			復習 道徳の課題と具体策をまとめる (60 分)
5	現代社会の道徳上の課題（いじめ・情報モラル等）	社会生活における道徳教育の目的と役割、栄養教諭との関連を学ぶ	予習 テキスト第 2 章・第 1 節を読む (60 分)
			復習 道徳の目的・役割をまとめる (90 分)
6	今日的教育課題と総合的な学習の時間の意義	総合的な学習の時間の意義を理解する。その必要性を議論する。	予習 解説の第 1 章・を読む (90 分)
			復習 総合学習の意義を記述する (90 分)
7	総合的な学習の時間の目標及びその内容	総合の目標・内容を理解し、栄養教育にどう生かせるかを学ぶ	予習 解説の第 2・3 章を読む (60 分)
			復習 生かし方の視点を取りまとめる (60 分)
8	総合学習の教育課程上の役割と年間指導計画の作成	総合の指導計画の作成方法を具体的に学ぶ（指導案の作成）	予習 指導案を自分なりに作成する (60 分)
			復習 指導計画の作成方法をまとめる (60 分)

9	横断的な資質・能力等の理解と各教科等との関連性	総合と各教科等との関連性を議論し、その必要性を理解する。	予習 関連事項を解説からまとめる (60 分)
			復習 関連の具体例をまとめる (90 分)
10	主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画と授業	総合学習はアクティブラーニングの要素が大であることを理解する。	予習 総合の単元計画の概要理解 (60 分)
			復習 総合学習の在り方をまとめる (90 分)
11	学校教育の課題と特別活動の意義・目的	特別活動の意味の理解、語義的な解釈等を学ぶ	予習 特別活動の体験をまとめておく (60 分)
			復習 特別活動の語義的意味をまとめる (90 分)
12	特別活動の目標と内容 (学習指導要領) の理解	学校の状況・特別活動の目標について、栄養教諭の立場から考える	予習 テキスト p 130～を読む (60 分)
			復習 特別活動の目標・課題のまとめ (90 分)
13	各内容の特質と集団活動の原理	学習指導要領の内容から特別活動の原理・特質を学ぶ	予習 テキスト p 83～の内容を読む (60 分)
			復習 特別活動の原理・特質をまとめる (90 分)
14	各内容の活動の実践－授業の特質 (実際例、模擬授業等)	その実際例、模擬授業等から学ぶ	予習 テキスト p 24、76 を読む (60 分)
			復習 各内容の活動事例を記述する (90 分)
15	特別活動を指導する教師－組織的な思考と役割行動	その役割、組織的な思考と行動を学ぶ (栄養教諭の指導を中心に)	予習 教師あり方を考える (90 分)
			復習 栄養教諭の指導性をまとめる (90 分)

◆教科書及び資料 *以下の3冊を持参すること。

書 名	著 者	発行所
『小学校学習指導要領解説 道徳編』 h 29.7	文部科学省	廣済堂あかつき株式会社
『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 h 29.7	文部科学省	
『改訂三版 キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談』	有村久春	金子書房、2017

◆参考書 * 必要な資料を随時配布する。

◆関連科目 「教育課程論」「生徒指導の理論と方法」

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50%	小テスト	10%
レポート、プレゼン発表	20%	実技 (発表・コミュニケーション)	10%
学習に取り組む姿勢・意欲	10%		

(補足) *学習に取り組む姿勢・意欲については、授業内容への問い (相互質問) に積極的に応えること、レポート作成および課題のプレゼンなどに取り組むことを評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・プレゼン発表やレポート内容を点検し、個々の学生に適したアドバイスを文字化して返却する。
- ・縮小コピー等を行い、受講学生全員に配布する。学びの共同化を図る。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に授業に参画し、疑問点や質問事項を提案すること。
- ・予習や復習を十分に行う。必要なプレゼン発表や課題レポートに意欲的に取り組むこと。
- ・自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組むこと。

◆オフィスアワー

- ・受付時間: 原則として、火曜日、水曜日、金曜日の昼休み (12 : 10～12 : 50)
- ・受付場所: 教育学第1研究室 (4号館)
- * 上記で対応できない場合: 研究室入口の伝言板に用件をメモすること。

生徒指導の理論と方法 (2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 2 年・後期
担当者氏名 嶺井正也

◆授業概要

個別の課題への対応のみが生徒指導であると経験上考える学生の意識を問い直しながら、生徒指導とは学校内外における児童生徒の生活全般を対象とした支援であることを学ぶ。

生徒指導は、特別活動を要としながら教科、道徳科、総合的な学習の時間など教育課程の全体を通じて行われるものであることを具体的に理解できるようにする。続いて、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高める生徒指導の理論、方法、課題、体制づくりなどを具体的に取り上げて考察する。さらに不登校、いじめ、自殺、GID など個別の課題への対応の必要性と方法を取り上げる。そしてこれらにかかわる児童の権利条約、学校教育法、いじめ防止対策推進法などを取り上げる。板書やプリントに加え、DVD 等のメディア利用、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。また中間時点で小テストを実施する。

◆到達目標

1. 学習指導と並んで学校教育活動の柱となっている生徒指導の意義と役割を説明できる。
2. 生徒指導の理論について考えを深め、教育課程にそった生徒指導の内容や方法を具体的に身につけることができる。
3. 自己指導能力の育成をめざす児童生徒全体に対する生徒指導の意義と進め方や個別の問題に対する対処方法を理解し、身につけることができる。
4. 改訂版の『生徒指導提要』のポイントを把握できる。

◆授業計画

回	項 目	内 容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	生徒指導体験の振り返り	オリエンテーションとこれまで受けてきた生徒指導を振り返る。	予習 シラバスを読んで、授業の流れを確認し、またこれまでの生徒指導体験をメモしておく (180 分) 復習 オリエンテーションを踏まえ再度授業計画を確認する (60 分)。
2	生徒指導の定義と理念 (理論編)	学習指導要領解説による生徒指導の定義や理念を検討する。	予習 前回の授業で配布された学習指導要領解説を熟読しておく (120 分)。 復習 生徒指導と生活指導との異同について確認する (120 分)。
3	生徒指導の方法	学習指導とのかかわりを踏まえながら生徒指導の方法の概略 (成長を促す方法・予防的方法・課題解決の方法、集団指導・個別指導) を把握する。	予習 前回の授業において配付した資料を熟読し、内容を整理しておく (120 分)。 復習 学習指導との違いがありつつ、両者に密接にかかわっていることを確認し、生徒指導の方法の概略を確認する (120 分)。
4	生徒指導と教育課程	特別活動を中心としながらも教育課程のすべてを通じて行われる生徒指導の在り方を理解する。	予習 学習指導要領解説で「特別活動」の意義と内容を確認する (120 分)。 復習 特別活動のなかでも学級活動が生徒指導の中心となることの理解を深めておく (120 分)。
5	生徒理解の意義と方法	生徒指導の出発点である生徒理解の意義と方法を認識する。	予習 「生徒理解とは何か」を調べておく (120 分)。 復習 とくに「共感的理解」について振り返りを行う (120 分)。
6	生徒指導にかかわる法令	体罰禁止を規定する学校教育法や文部科学省通知、児童の権利条約、子ども基本法などの理解を深める。	予習 児童の権利条約について調べておく (120 分)。 復習 「校則」の在り方や内容について理解を深める (120 分)。
7	生徒指導の方法：発達支持的生徒指導	生徒指導の方法のなかでも生徒全体を対象とする「発達を支持する生徒指導」の具体的方法を検討する。	予習 第 3 回授業で概略をつかんだ「成長を促す指導」を振り返っておく (120 分)。 復習 授業中で検討した具体的方法のポイントを整理する (120 分)。
8	これまでの復習と小テスト、プレゼンテーション準備	小テストによる第 7 回までの授業の振り返りを行い、あわせて第 14 回に行うプレゼンテーションの準備を行う。	予習 これまでの授業を振り返り、要点を確認する (180 分)。 復習 小テストで不明だった点について再確認の学習をおこなう (60 分)。
9	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について」調査結果の検討	毎年 10 月に公表される同調査の結果で明らかになっている課題についての確認と考察をすすめる。	予習 同調査の結果を検討する (120 分)。 復習 同年度に明らかになった特徴的な課題を確認する (120 分)。
10	課題予防的・困難課題対応的生徒指導の方法 1：いじめにかかわる生徒指導	いじめ防止対策推進法の理解をふかめつつ、重大事態を生まない方法や SNS によるいじめを抑制する方法を検討する。	予習 いじめ防止対策推進法を熟読しておく (120 分)。 復習 個別の学校の「いじめ防止基本方針」を確認する (120 分)。

11	課題予防的・困難課題対応の生徒指導の方法2：GID・LGBTsにかかわる生徒指導	性自認・性指向の多様性をふまえ、現在の学校教育において生じている課題を認識し、その解決を考察する。	予習 文部科学省の「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」を読んでおく(120分)。 復習 自治体における取組を確認し、要点をまとめる(120分)。
12	課題予防的・困難課題対応の生徒指導の方法3：不登校に関する生徒指導	教育機会確保法制定以降も増加し続けている不登校についての理解を深めつつ、どのように対応すればいいかについて理解する。	予習 多様な不登校対策を調べておく(120分)。 復習 不登校理由をふまえた丁寧な指導が重要であることを、生徒の気持ちにたって理解する(120分)。
13	特別支援にかかわる生徒指導	インクルーシブ教育システムで行われる特別支援において重要となる生徒指導の留意点を把握する。	予習 インクルーシブ教育とは何かを調べて置く(120分)。 復習 「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」でよく取り上げられる生徒支援をまとめる(120分)。
14	選択テーマに関するプレゼンテーション	選んだテーマについてのプレゼンテーションと質疑を行う。	予習 プレゼンテーション準備をおこなう(180分)。 復習 質疑応答で明らかになった課題をフォローする(80分)。
15	まとめ：「指導死」をうまなために	授業全体の振り返りを行い、最後に「指導死」という逆説が生じないためにポイントを確認する。	予習 授業全体をふりかえり、要点を再確認する(180分)。 復習 「指導死」という逆説をうまなための基本を確認する(60分)。

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
『共に創り出す公教育へ』	嶺井正也・その他	八千代出版株式会社

◆参考書

書名	著者	発行所
『教職六法』2025年度版	高見茂 他	協同出版
『生徒指導提要（改訂版）』	文部科学省	
『小中学校学習指導要領解説』	文部科学省	

◆関連科目

「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の指導」、「教職概論」、「教育相談の理論と方法」

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率（％）	評価項目	評価比率（％）
定期試験	60	小テスト	20
レポート		実技（発表・コミュニケーション）	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

（補足）「学習に取り組む姿勢・意欲」は、主に授業最後に書くリアクション・ペーパーの内容で確認する。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

- ①小テストについては終了後に説明を行うが、結果はメールで連絡する。
- ②リアクション・ペーパーについては、次の時間にコメントする。

◆受講上の注意事項及び助言

基本的に授業中のスマートフォン使用は認めないが、調べる必要がある場合にはその都度使用について指示する。

◆オフィスアワー（新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること）

受付時間：水・木・金曜日昼休み

受付場所：4号館5階教育学第3研究室

上記で対応できない場合：メール（minei-m@tsc-05.ac.jp）で対応

学校ボランティア (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2・3年・前期・後期
 担当者氏名 有村久春、田中広美、嶺井正也

◆授業概要

本講義では、学校ボランティアの意義や内容について学校教育の実際に触れて学ぶことを基本とする。その際、葛飾区内の小学校において、2年次の9月と2月の1週間ずつ計2週間のボランティア体験を行う。

その主な内容は、①事前学習としてボランティアの意義や内容を学ぶ、配置校への事前訪問（あいさつ、校内参観、給食時間の参観など）、②ボランティアの実際体験（配置学校の計画による。例：学級担任・教科指導の補助、給食時間の補助、放課後の学習相談活動、放課後遊びサポート、学校行事の補助、部活動の補助、障害のある子供の学習・学校生活への支援など）、③事後学習としてまとめのレポート作成・提出、配置校への礼状（あいさつ）などである。また、まとめとして報告発表会も予定する。

◆到達目標

1. 学校でのボランティア活動を通して、栄養教諭の立場から学校教育の実際とその在り方を実践的に学ぶことができる。
2. 学生自らが自発的に学校教育に関する課題を見出し、具体的なボランティア体験を通して实际的・体験的に学修することができる。
3. 4年次に履修する教育実習に向けて、教職への自己の適性を知る機会とすることができる。

◆授業計画

* 具体的な学修計画は別途作成して、授業時に配布する。

回	項 目	内 容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	事前学習① 学校ボランティアの意義	学校ボランティアの意義・内容の理解、学習への意欲など	予習 シラバスを読んでおく（60分）
			復習 学校ボランティアの意義・内容を理解する。ノートにまとめる。（30分）
2	事前学習② 配置校の理解	葛飾区立の小学校の情報（HP）をもとに配置校の教育状況を知る	予習 HP等で配置校の情報を得る（60分）
			復習 配置校の理解を深め記録する（90分）
3	事前学習③ 活動内容の事前準備	事前訪問、あいさつ、ボランティア活動の内容理解	予習 事前訪問の心構えをつくる（60分）
			復習 配置校の状況を知りまとめる（60分）
4	ボランティアの実際①	配置校の計画によるボランティア活動（担任の補助、給食の援助など）	予習 持ち物等の準備をする（90分）
			復習 活動内容をまとめる（60分）
5	ボランティアの実際②	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
6	ボランティアの実際③	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
7	ボランティアの実際④	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
8	9月の活動体験のまとめ	ボランティア学習のレポート作成、配置校への礼状など	予習 活動内容の資料整理をする（60分）
			復習 レポート内容の確認と記録（60分）
9	ボランティアの実際⑤	配置校の計画によるボランティア活動（担任の補助、給食の援助など）	予習 持ち物等の準備をする（60分）
			復習 活動内容をノートにまとめる（90分）
10	ボランティアの実際⑥	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
11	ボランティアの実際⑦	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
12	ボランティアの実際⑧	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)

13	2月の活動体験のまとめ	ボランティア学習のレポート作成、 配置校への礼状など	予習 活動内容の資料整理をする (90分)
			復習 レポート内容の確認・記録 (60分)
14	事後学習① まとめのレポート	まとめのレポート作成、報告の準備	予習 活動内容の全体を振り返る (90分)
			復習 報告内容の確認・記録 (60分)
15	事後学習② 報告会	学校ボランティアの体験と成果を学 び合う	予習 報告内容の整理と準備をする (60分)
			復習 全体の成果の自己確認・整理 (90分)

＊ 9月・2月のボランティア実習日 (計2週間)

第1回 → 9.16 (火) ～9.22 (月) 5日間

第2回 → 2.24 (火) ～3.2 (月) 5日間

◆教科書及び資料

書 名	著 者	発行所
特に指定しない ＊随時配布資料を用意する		

◆参考書

書 名	著 者	発行所

必要な資料を随時配布する。

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	30%	実技 (発表・コミュニケーション)	40%
学習に取り組む姿勢・意欲	30%		

(補足) ＊学習に取り組む姿勢・意欲については、ボランティア活動への実際およびレポート作成、プレゼンなどにどのように取り組んだかを評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・あいさつ文やレポート内容を点検し、個々の学生に適したアドバイスを文字化して返却する。
- ・レポート等をコピーし、受講学生全員に配布する。学びの共同化を図る。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。また、発表会に活用する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に学校ボランティアの学習に参画し、疑問点や質問事項を提案すること。
- ・必要な課題レポートに意欲的に取り組むこと。
- ・自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組むこと。
- ・配置校の指示を積極的に理解し、ボランティア体験を日々の学修に生かすこと。

◆オフィスアワー

- ・受付時間： 原則として、月曜日、水曜日、金曜日の昼休み (12:10～12:50)
- ・受付場所： 4号館：教職課程センター、担当教員の教育学研究室
- ＊ 上記で対応できない場合： 研究室入口の伝言板に用件をメモすること。